

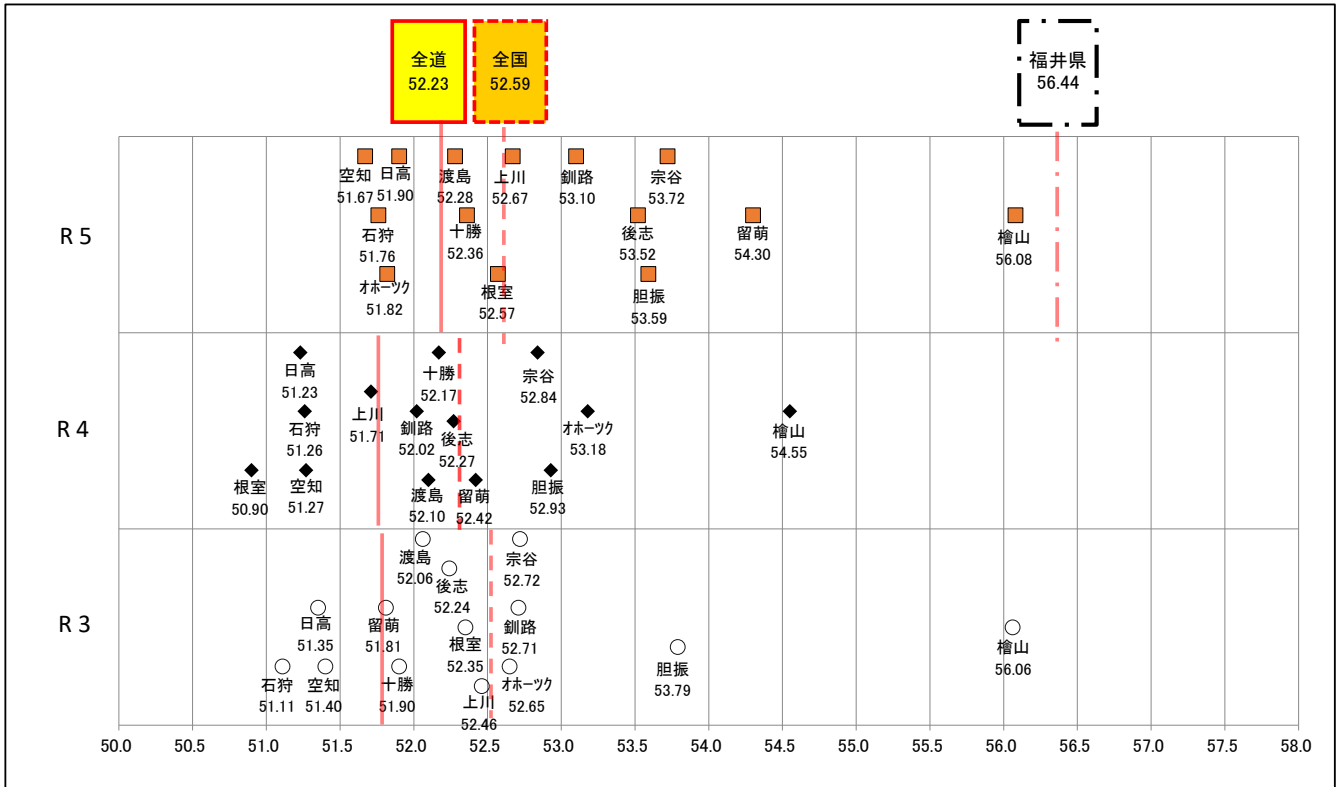
V 各管内の状況

ここでは、令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各管内の結果を分析し、「管内の体力合計点の分布」「管内の状況、分析及び体力向上策」を掲載しています。

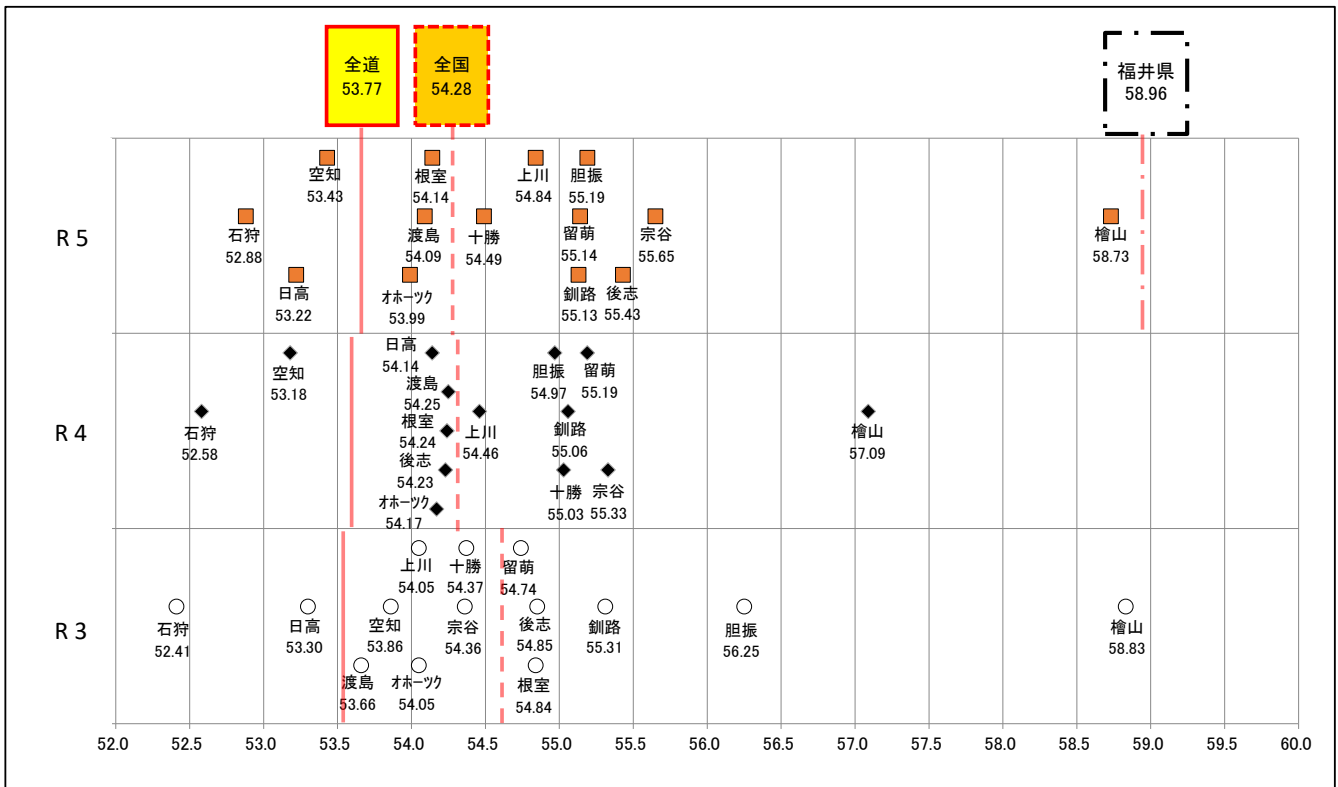
各市町村教育委員会、学校においては、本資料を参考に、各管内の状況や改善の方向性等を把握し、今後の取組を工夫・改善するなど、各地域や学校における取組の更なる充実に向け、御活用ください。

1 管内の体力合計点の分布

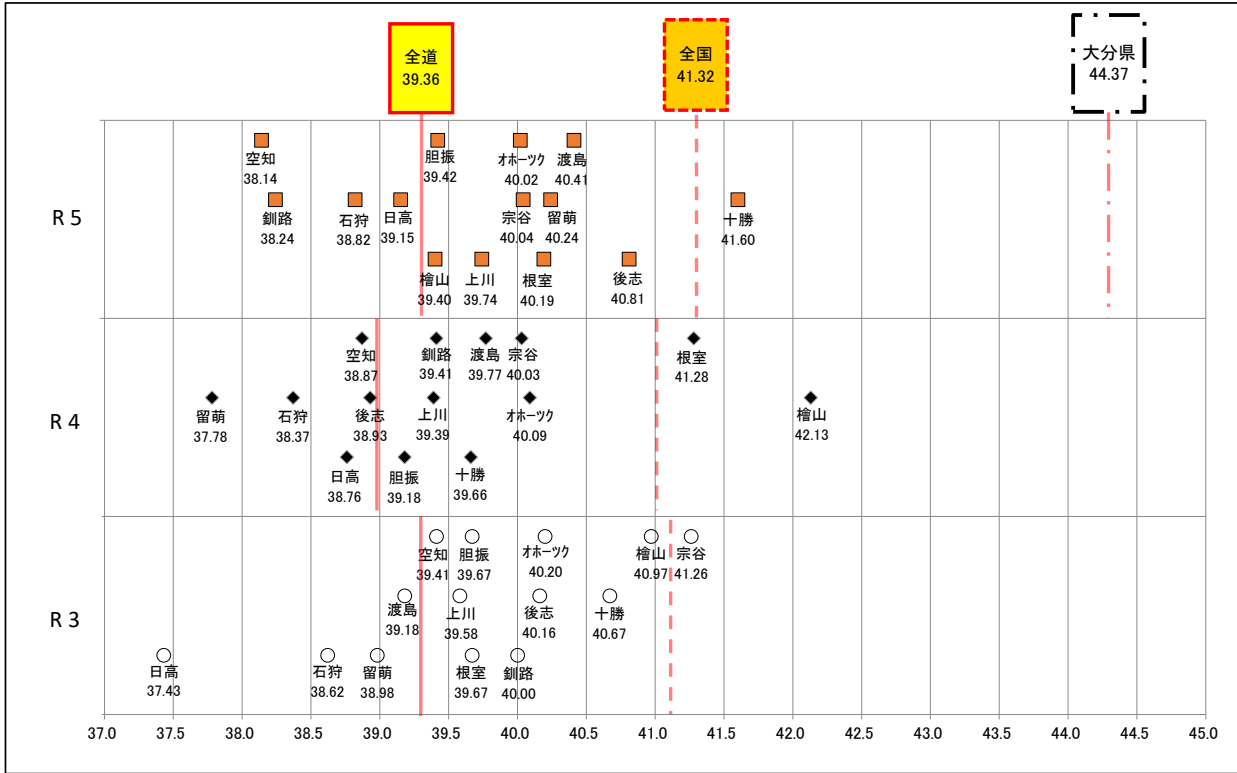
(1) 小学校男子



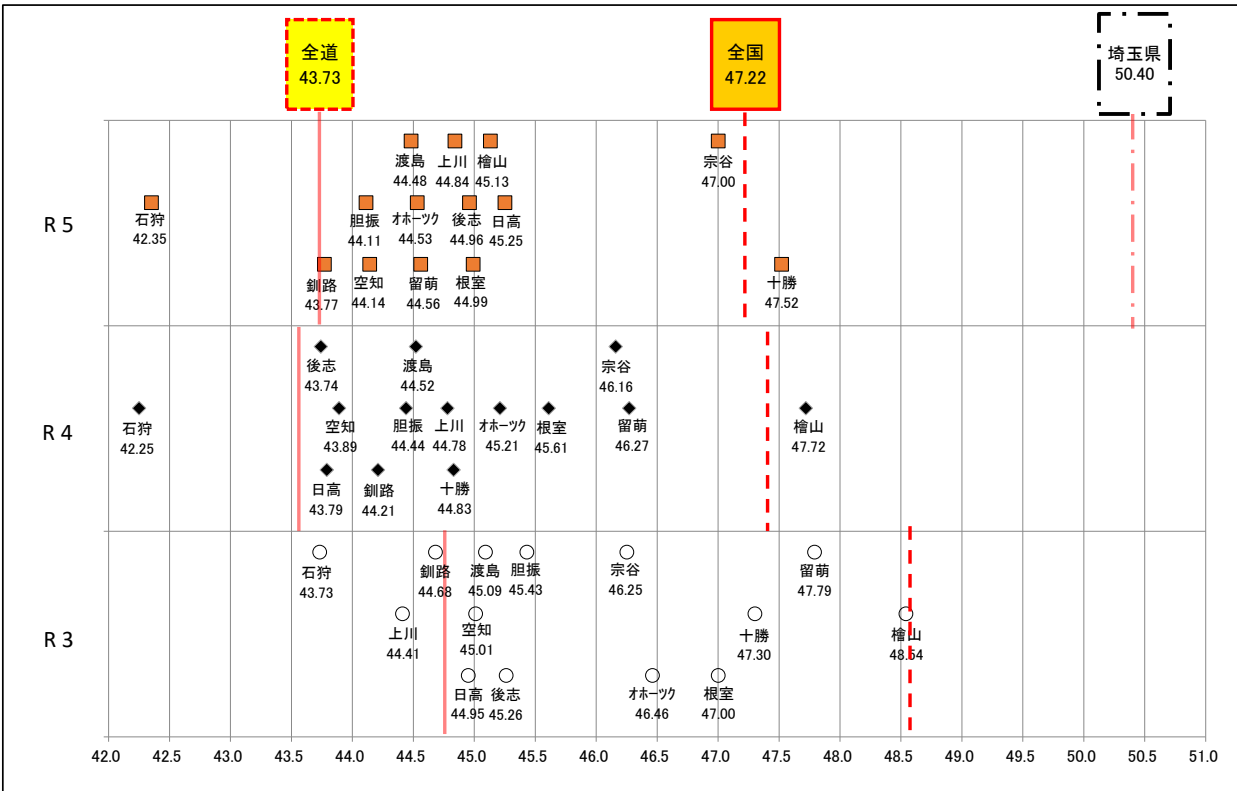
(2) 小学校女子



(3) 中学校男子



(4) 中学校女子



2 各管内の状況

空知管内の状況

10市14町

小・中学校

(小学校数:56校 児童数:1,647人、中学校数:38校 生徒数:1,711人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

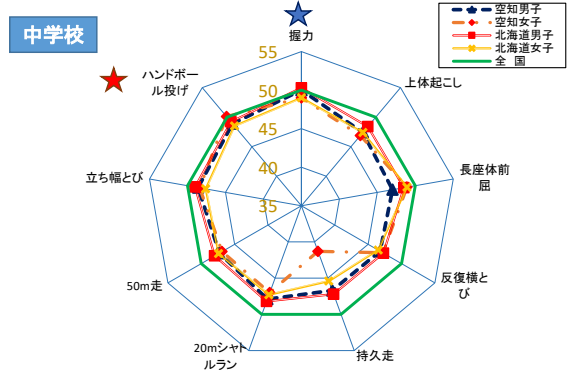
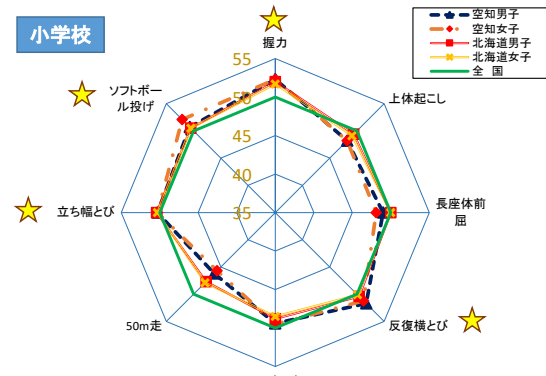
	男子	女子
空知	51.67	53.43
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
空知	38.14	44.14
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

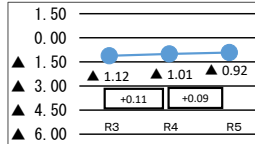
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ★は女子のみ全国平均以上の種目

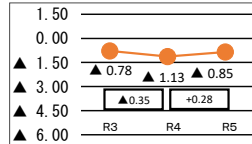


【体力合計点の全国との差とその推移】

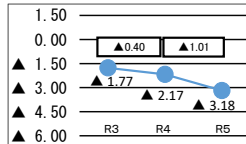
小学校男子



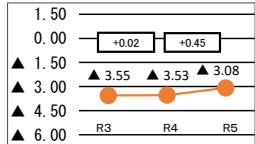
小学校女子



中学校男子



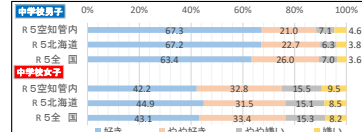
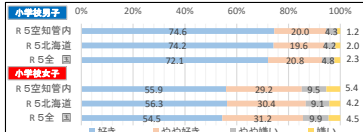
中学校女子



【質問紙調査の状況】

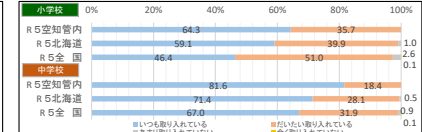
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

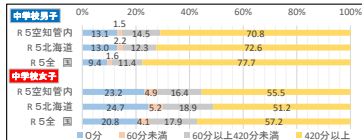
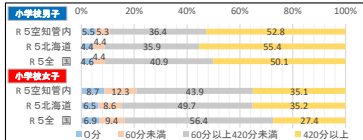


<学校質問紙>

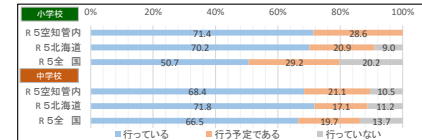
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



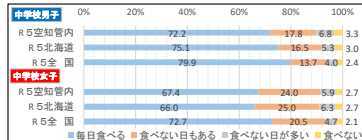
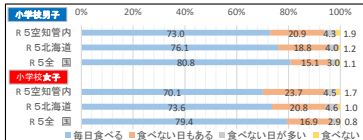
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



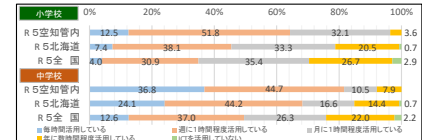
○ 運動(スポーツが得意(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



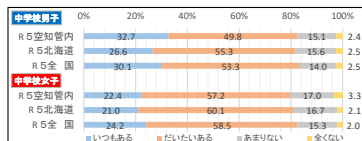
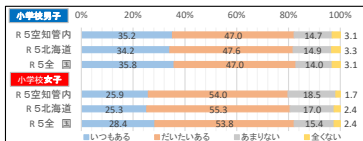
○ 朝食は毎日食べますか。



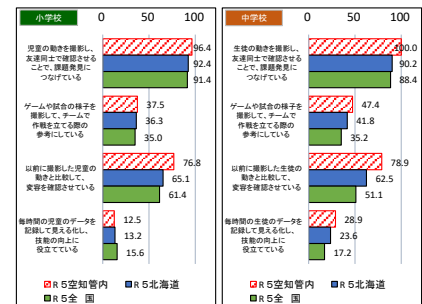
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用していますか。



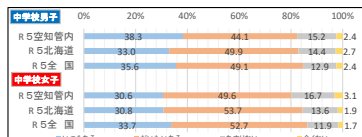
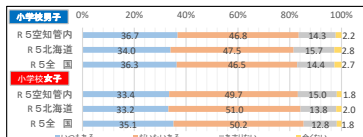
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用していますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜小学校＞		＜中学校＞	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較し、男子で0.92ポイント、女子で0.85ポイント下回った。 ○ 各種目の状況は、男女ともに、「種力」反復横及び「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「立ち幅跳び」の種目で、全国平均以上となった。 ○ 体力合計点の全国との差とその推移は、令和4年度と比較し、男子で、0.09ポイント、女子で、0.28ポイント差が縮まった。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較し、男子で3.18ポイント、女子で3.08ポイント下回った。 ○ 各種目の状況は、男子で、「種力」の種目で全国平均と同となり、女子で、「ハンドボール投げ」の種目で、全国平均以上となった。 ○ 体力合計点の全国との差とその推移は、令和4年度と比較し、男子で、1.01ポイント差が広がり、女子で、0.45ポイント差が縮まった。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校において、体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動を取り入れ、運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていたことにより、男女ともに、体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習したり、体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。 ○ 各学校において、体育の授業でICTを活用して児童の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につなげたり、以前に撮影した児童の動きと比較して、姿勢を確認させたりしたことにより、男女ともに、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きだと思う児童の割合が、全道を上回ったと考えられる。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校において、体育の授業の冒頭で、その授業の目標を生徒に示す活動を取り入れ、運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていたことにより、男女ともに、体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習したり、体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習した生徒の割合が、全道を上回ったと考えられる。 ○ 各学校において、体育の授業でICTを活用して生徒の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につなげたり、以前に撮影した生徒の動きと比較して、姿勢を確認させたりしたことにより、男女ともに、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きだと思う生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

空知管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- 【令和4年度の管内の課題】**
- 児童生徒質問紙において、「運動が好き」と答えた男女児童及び男子生徒の割合は全国を上回ったが、女子生徒は下回り「授業は楽しい」と答えた児童生徒の割合は男子児童を除いて全道を下回ったことから、授業改善の必要がある。
 - 学校質問紙において、「体育授業で学習したことを振り返る活動」をいつも取り入れていると答えた学校が、「体育授業の目標を児童生徒に示す活動」をいつも取り入れていると答えた学校より低いことから、振り返りの時間の充実を図る必要がある。
 - 児童生徒質問紙で、「放課後や学校が休みの日に、運動をすることがよくある」と答えた児童生徒の割合は、女子児童及び男児生徒で全国及び全道を下回ったことから、地域等と連携した取組の推進を図る必要がある。

(1)A 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 児童生徒が「運動が好き」「授業は楽しい」と感じる授業改善の推進に係る指導助言
- 授業改善に係るリーフレットの作成及びクラウドを活用した動画教材等の提供

(2)B 学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の運動機会の充実を図る取組

- 新体力テストの分析結果を生かした授業づくり、特に振り返りの場面の充実に係るリーフレットの作成及び周知
- 体育専科等教員及び中学校体力向上推進教員等と連携を図った体力向上に係る研修の実施や好事例の周知

(3)C 行政、学校、地域住民、企業等の連携による子どもが主体的に学び表現する場の充実

- 社会教育と連携した地域人材の活用及びPTA等との協働を図る研修会等の開催
- 道内や管内における好事例の周知

2 具体的な取組

月	(1)A 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	(2)B 検証改善 (PDCA) サイクルによる教育課程の評価・改善	(3)C 行政、学校、地域住民、企業等の連携による子どもが主体的に学び表現する場の充実
4	・第1回教育長会議		
5	・第1期市町教育委員会訪問	・新体力テストの実施	
6		・新体力テストの結果の分析及び体力向上プランに基づく各校における取組の実施開始	
7			
8			・生活リズムチェックシート等に基づいた、生活習慣の確立に向けた取組
9	・小学校体育エキスパート教員公開授業		
10	・中学校体力向上推進教員授業実践・改善セミナー		
11	・授業改善に係るクラウドを活用した動画教材の提供開始	・新体力テストの再実施等による体力向上の取組	・空知観学セミナーの実施 ・放課後活動推進協議会の実施
12	・授業改善に係るリーフレットの作成・配信	・新体力テストと授業をつなぐ教育課程に係るリーフレットの作成・配信	
1		・成果及び課題に基づく次年度の教育課程の検討	・生活リズムチェックシート等に基づいた、生活習慣の確立に向けた取組
2	・第II期市町教育委員会訪問	・体育専科等教員及び中学校体力向上推進教員の実践の周知	・地域人材やPTA等との連携に係る次年度の取組検討
3			

学校教育指導訪問による指導助言

3 取組の評価 ※ () は目標値

(1)A 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	(2)B 検証改善 (PDCA) サイクルによる教育課程の評価・改善	(3)C 行政、学校、地域住民、企業等の連携による子どもが主体的に学び表現する場の充実
<p>① 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きと回答した児童生徒の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…男子：74.6% (80.0%) 女子：55.9% (80.0%) ・中学校…男子：67.3% (70.0%) 女子：42.2% (70.0%) <p>② 保健体育の授業は楽しいと回答した児童生徒の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…男子：74.4% (70.0%) 女子：57.6% (70.0%) ・中学校…男子：56.3% (70.0%) 女子：34.6% (70.0%) 	<p>① 調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った学校の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…85.5% (80.0%) ・中学校…78.9% (80.0%) <p>② 体育授業で学習したことを振り返る活動をいつも取り入れている学校の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…56.4% (65.0%) ・中学校…68.4% (70.0%) 	<p>① 放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることがよくあると回答した児童生徒の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…男子：52.8% (50.0%) 女子：35.1% (50.0%) ・中学校…男子：70.8% (40.0%) 女子：55.5% (40.0%) <p>② 学校外の人材を活用している学校の割合</p> <p>【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校…74.5% (80.0%) ・中学校…76.3% (90.0%)

4 改善に向けた今後の方向性

<p>○ 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きと回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに、目標を下回ったことから、保健体育の授業は楽しいと回答した児童生徒の割合が、小学校女子及び中学校男女ともに、目標を下回ったことから、管内の体育専科教員や体育エキスパート教員、中学校推進教員の授業実践等について、管内に周知するとともに、管内や市町の課題の解決に向け、指導助言する。</p> <p>○ 管内の小学校において、体力合計点は、全国と比較して、男子が0.92ポイント、女子が0.85ポイント、中学校において、男子が3.18ポイント、女子が3.08ポイント下回ったことから、学校教育指導等により、単元や一単位の時間の目標を明確化することを働きかけるとともに、運動量確保した授業改善について指導助言する。</p>	<p>○ 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組を行った学校の割合が、中学校において、目標を下回ったことから、各学校の課題に応じて作成した「体力向上プラン」等に基づく取組について、新体力テストの結果をきめ細かに分析し、課題を明確にした上で改善策を実施するよう指導助言する。</p> <p>○ 体育・保健体育の授業の最後に、その授業で学習したことを振り返る活動を取り入れている学校の割合が、小学校・中学校ともに、目標を下回ったことから、児童生徒に身に付けさせる資質・能力と正対した振り返りを教育課程に位置付けるとともに、体力向上について、学校全体で共通理解を図り、継続的な取組を進めるよう指導助言する。</p>	<p>○ 放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることがよくあると回答した児童生徒の割合が、小学校女子において、目標を下回ったこと、学校外の人材を活用している学校の割合が、小学校・中学校ともに、目標を下回ったことから、社会教育指導班と連携し、空知観学セミナー等において、管内の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を周知するとともに、地域や家庭における運動機会の確保や運動習慣の確立に向けた取組を推奨する。</p> <p>○ 授業以外で、1週間に運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをする時間が合計で0分と回答した児童生徒の割合が、全国を上回ったことから、家庭と連携し、生活習慣の改善に向けた「生活リズムチェックシート」等の活用を推進する。</p>
---	--	---

石狩管内の状況

6市1町1村

小・中学校

(小学校数:266校 児童数:17,635人、中学校数:139校 生徒数:15,921人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

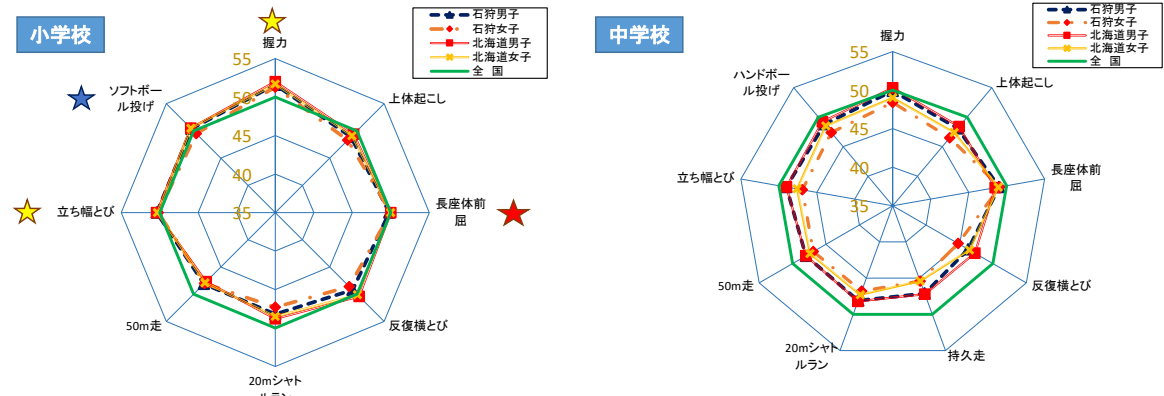
	男子	女子
石狩	51.76	52.88
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
石狩	38.82	42.35
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

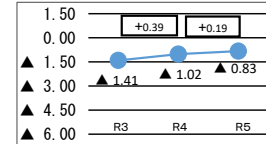
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ☆は男子のみ全国平均以上の種目 ★は女子のみ全国平均以上の種目

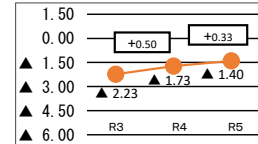


【体力合計点の全国との差とその推移】

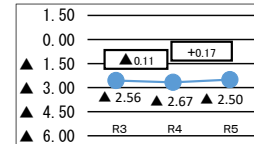
小学校男子



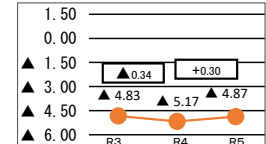
小学校女子



中学校男子



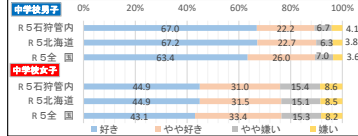
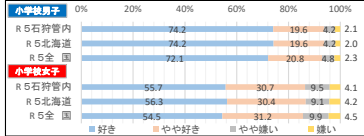
中学校女子



【質問紙調査の状況】

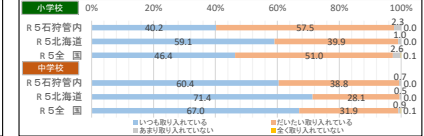
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

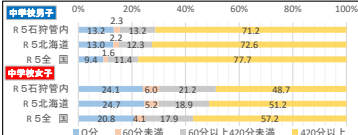
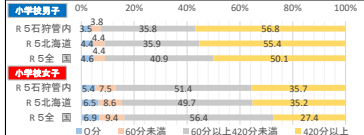


<学校質問紙>

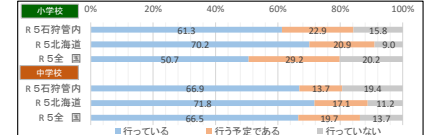
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



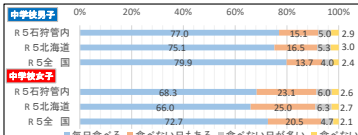
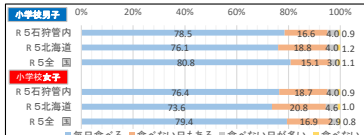
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



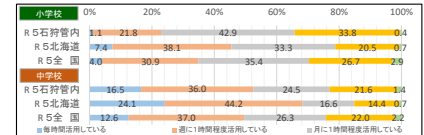
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



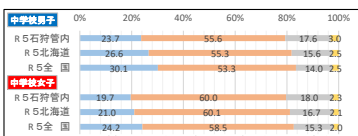
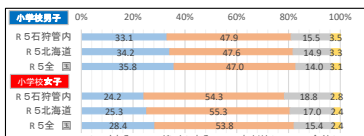
○ 朝食は毎日食べますか。



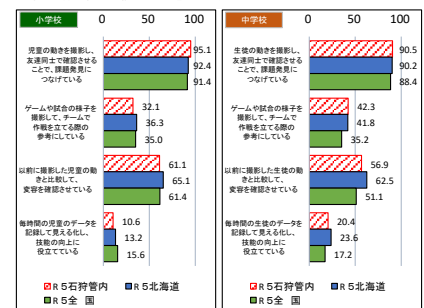
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



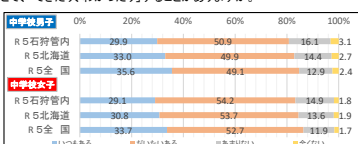
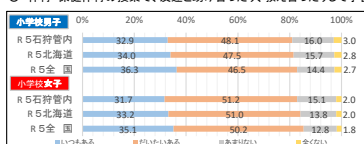
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.83ポイント、女子が1.4ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子は0.19ポイント、女子は0.33ポイント全国との差を縮めた。 ○ 種目別に全国平均以上となったのは、男女ともに3種目である。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が2.5ポイント、女子が4.87ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子が0.17ポイント、女子が0.3ポイント、全国との差を縮めた。 ○ 全国平均以上となった種目はなく、課題である。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童向けの取組、または能力差に応じた取組を行った」と回答した学校の割合は、61.3%であり、全国より10.6ポイント高い。 ○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童の割合は、男子が74.2%であり、全国より2.1ポイント高い。女子が55.7%であり、全国より1.2ポイント高い。 ○ 「体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動をいつも取り入れた」と回答した学校の割合は、40.2%であり、全国より6.2ポイント低い。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行った」と回答した学校の割合は、66.9%であり、全国より0.4ポイント高い。 ○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した生徒の割合は、男子が67.0%であり、全国より3.6ポイント高い。女子が44.9%であり、全国より1.8ポイント高い。 ○ 「保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を生徒に示す活動をいつも取り入れた」と回答した学校の割合は、60.4%であり、全国より6.6ポイント低い。

石狩管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

<p>(1) A 体力向上に向けた検証改善サイクルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新体力テストを全学年・全種目で実施し、全ての児童生徒の体力の状況を把握するとともに、結果分析を踏まえた授業改善や体力向上の取組の充実を図る必要がある。 ・「体力向上プラン」を作成し、児童生徒の実態を踏まえた検証改善サイクルの推進について指導助言 ・児童生徒が自己の運動能力や運動習慣等を適切に把握するとともに、運動習慣等の改善に主体的に取り組むことができるよう、個人記録の蓄積や活用について指導助言
<p>(2) B 各学校における体育・保健体育授業の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 体育・保健体育の授業における教員の指導力の向上を図るとともに、運動・スポーツが苦手な傾向がある児童生徒向けの取組を工夫する必要がある。 ・体育・保健体育の授業における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の充実について指導助言 ・自己の課題に応じた活動を選択できるよう、場の設定や教材・教具の工夫について指導助言
<p>(3) C 体育エキスパート教員等と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学校の教育活動全体を通じた児童生徒の体力向上や教員の指導力向上に向けた取組を推進する必要がある。 ・運動機会の創出など、学校の教育活動全体を通じた体力向上への取組について指導助言 ・小学校体育専科教員、エキスパート教員及び中学校推進教員による体育・保健体育の授業等の充実に向けた指導方法の工夫・改善に関する指導助言

2 具体的な取組

月	(1)A	(2)B	(3)C
4	教育長会議、校長会議、教頭・主幹教諭会議において、体力向上に向けた検証改善サイクル確立について周知・徹底		
5			
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育指導において、体力向上に成果が見られる学校の取組、継続して課題が見られる学校の種目を把握 ・校長会・教頭会幹事研修会において、新体力テストの実施について指導助言 ・各指定事業の実施・進行管理の徹底 		
7			
8			
9			
10	体育専科教員、体育エキスパート教員及び中学校推進教員を活用した授業力向上を図る体育授業の指導助言及び教育活動全体を通じた体力向上への取組の助言		
11			
12			
1	管内教育推進の重点に係る取組の評価、次年度の重点の検討		
2	各指定事業における取組の評価		
3			

3 取組の評価 ※ () は目標値

<p>(1) A 体力向上に向けた検証改善サイクルの確立</p> <p>① 前年度、学年としての体力・運動能力向上の目標設定の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：77.8%、中：83.8%、義務：50%</p> <p>② 調査結果を踏まえた取組の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：95.2%、中：83.8%、義務：100%</p>	<p>(2) B 各学校における体育・保健体育授業の改善</p> <p>① 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで「できたり、わかったり」する児童生徒の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：83.0%、中：82.4%、義務：85.0%</p> <p>② 体育・保健体育の授業が楽しいと感じる児童生徒の状況 (目標値：全小・中学校、義務教育学校100%) ■小：92.7%、中：83.9%、義務：75.5%</p>	<p>(3) C 体育エキスパート教員等と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進</p> <p>① 体育・保健体育の授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組の状況 (目標値：前年度比+10p) ※前年度 小学校：90.8%、中学校：63.9% ■小：90.5%、中：78.4%、義務：100%</p> <p>② 調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った学校の状況 (目標値：前年度比+10p) ※前年度 小学校：43.5%、中学校：60.2% ■小：85.7%、中：94.6%、義務：100%</p>
---	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

<p>(1) 体力向上に向けた授業改善サイクルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で体力・運動能力向上の目標を具体的に設定し、児童生徒の現状や課題、進捗状況を把握して改善を図るなど組織的な検証改善サイクルを確立させる必要がある。 ○ 各学年が、新体力テスト等の結果を踏まえ、体力向上に向けた取組の工夫・改善を図る必要がある。 	<p>(2) 各学校における体育・保健体育授業の改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒が、授業でできたり分かったりすることができるよう、身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、本時の目標を設定する等の授業改善を推進する必要がある。 ○ 体育・保健体育の授業が楽しいと感じることができるよう、ICTを活用し、児童生徒が自身の成長や変容を自觉できる場を設定する必要がある。 	<p>(3) 体育エキスパート教員等と連携した、体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育エキスパート教員等と連携し、児童生徒の運動機会の確保や運動環境の整備を図るなど、授業以外の体力向上の取組を推進する必要がある。 ○ 自校の状況を経年で分析し、自己の課題に応じた活動を選択することができる場の設定や教材・教具の工夫を行うなど、指導方法の改善を図る必要がある。
---	--	---

後志管内の状況

1市13町6村

小・中学校

(小学校数:56校 児童数:1,227人、中学校数:36校 生徒数:1,242人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

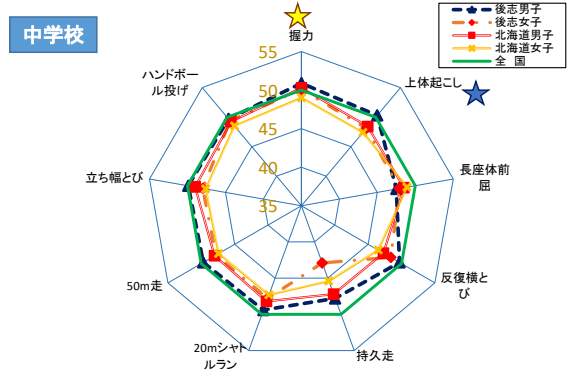
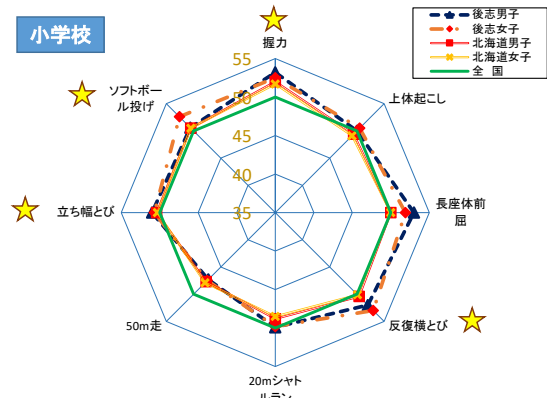
	男子	女子
後志	53.52	55.43
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
後志	40.81	44.96
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

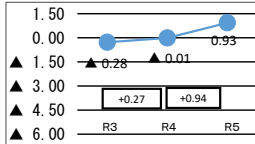
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ☆は男子のみ全国平均以上の種目 ☆は女子のみ全国平均以上の種目

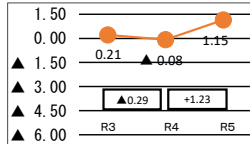


【体力合計点の全国との差とその推移】

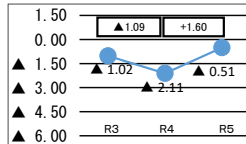
小学校男子



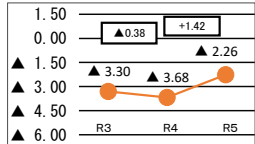
小学校女子



中学校男子



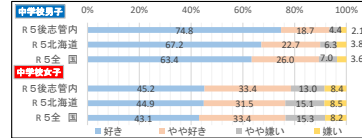
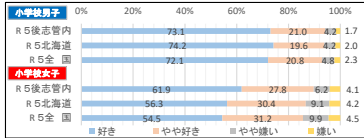
中学校女子



【質問紙調査の状況】

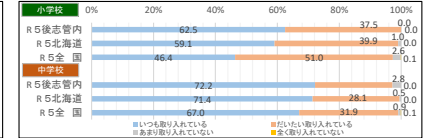
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

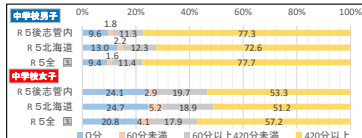
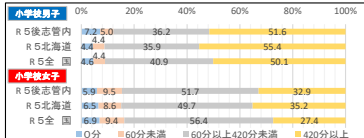


<学校質問紙>

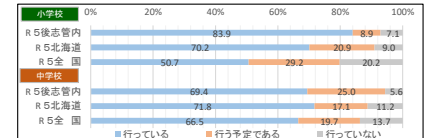
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



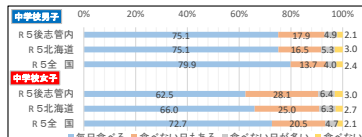
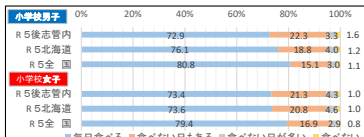
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



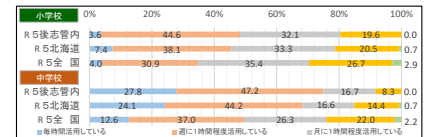
○ 運動・スポーツが得意(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力に応じた取組を行っているか。



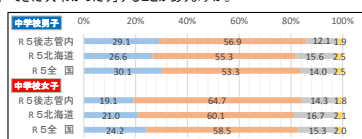
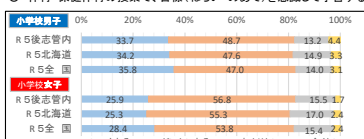
○ 朝食は毎日食べますか。



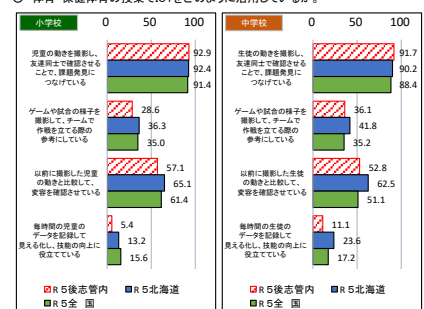
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



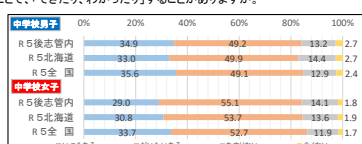
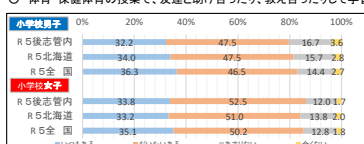
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

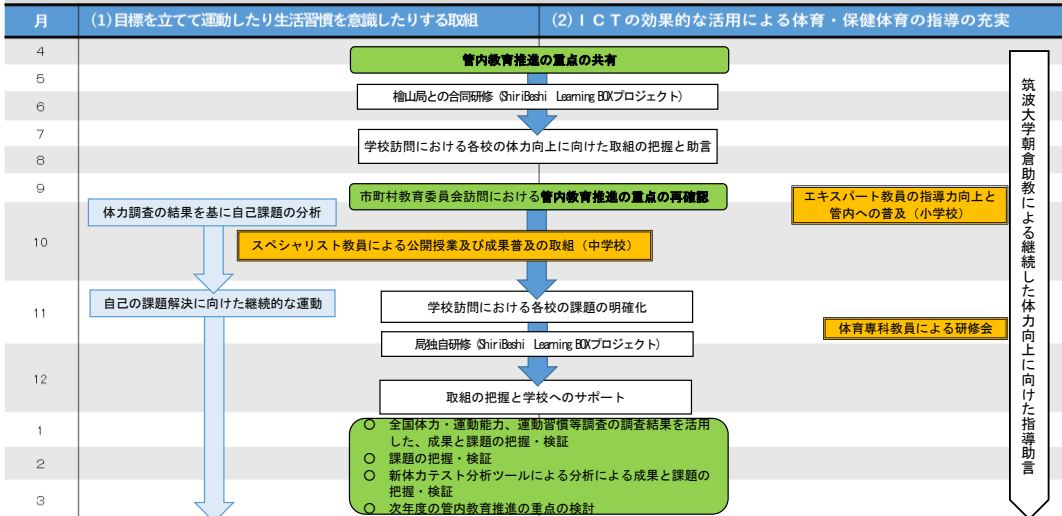
＜ 小学校 ＞	＜ 中学校 ＞
<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国を上回り、男子が0.93ポイント高く、女子が1.15ポイント高かった。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が5種目、女子が6種目である。 <p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の目標を児童に示す活動をいつも取り入れていると回答した学校の割合は62.5%であり、全国と比べて16.1ポイント高い。 ○ 体育の授業でのICT活用頻度で、週に1時間程度以上活用していると回答した学校の割合は48.2%であり、全国と比べて13.3ポイント高い。 ○ 運動やスポーツをすることが好きという設問において肯定的な回答をした児童の割合が、全国と比べて1.2ポイント、女子で4.0ポイント高い。 	<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.51ポイント低く、女子が2.26ポイント低く課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が2種目、女子が1種目である。 ○ 体力合計点の差は、R4調査から、男子が+1.60ポイント、女子が+1.42ポイントと、ともに大きく縮まっている。 <p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の目標を生徒に示す活動をいつも取り入れていると回答した学校の割合は72.2%であり、全国と比べて5.2ポイント高い。 ○ 保健体育の授業でのICT活用頻度で、週に1時間程度以上活用していると回答した学校の割合は75.0%であり、全国と比べて25.4ポイント高い。 ○ 運動やスポーツをすることが好きという設問において肯定的な回答をした生徒の割合が、全国と比べて4.1ポイント、女子で2.1ポイント高い。

後志管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1) 子どもが自己課題を分析し目標を立てて運動する取組
- 自己の課題に応じて運動に親しむ点に課題がある。
 - 自己課題の分析と解決に向けた運動機会の設定
- (2) ICTの活用による体育・保健体育の指導の充実
- 授業におけるICTの活用に課題がある。
 - ICTの活用場面を意識した授業づくり
 - 例) 撮影した動画を基に自分(たち)の課題を発見できる授業づくり
 - 例) 子どもが自分の課題の改善に向けて、見本や自分の試技を見直す授業づくり
 - 例) 子どもが自分の変容を確認し、成長を実感できる授業づくり
 - 「体育(保健体育)の授業は楽しい」に否定的な回答をする子どもがいる。
 - 成長を実感できる、見通しと振り返りを大切に授業づくり

2 具体的な取組



3 取組の評価

<p>(1) 子どもが自己課題を分析し目標を立てて運動する取組</p> <p>① 新体力テスト等を活用した子どもが自己課題の分析を行う場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 小100% 中100% ・達成 小84.6% 中97.1% <p>② 自己課題解決に向けた運動機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 小100% 中100% ・達成 小90.4% 中91.2% 	<p>(2) ICTの活用による体育・保健体育の指導の充実</p> <p>① ICTの積極的な活用(週1時間程度以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状 小31.6% 中51.4% ・目標 小100% 中100% ・達成 小71.2% 中88.2% <p>② 見通しと振り返りを大切に授業づくり(授業で目標を子どもに示す)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状 小61.4% 中85.7% ・目標 小100% 中100% ・達成 小98.1% 中97.1%
--	--

4 改善に向けた今後の方向性

<p>(1) 子どもが自己課題を分析し目標を立てて運動する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第1学年から中学校第3学年までの新体力テストの結果をキャリア・パスポート等に蓄積するなど、児童生徒が自らの体力や運動能力、健康に関心をもち、課題意識や目標をもって運動に取り組もうとする意識の醸成について、学校教育指導等で指導助言する。 ○ 局独自研修(ShiriBeshi Learning BOX)等を通し、体力向上に向け、学校全体で体制の充実を図り、児童生徒が休み時間等を利用し、自己の課題や目標に応じて日常的に運動に取り組むことができる環境の整備の工夫、児童生徒の意欲を喚起する児童会活動等での運動機会の設定など、管内の好事例について情報提供を行う。 	<p>(2) ICTの活用による体育・保健体育の指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育・保健体育授業におけるICT活用の意識が高まったが、更なる充実を図るため、以前に撮影した児童生徒の動きと比較させたり、毎時間の児童生徒のデータを記録して見える化したりするなど、単元や内容のまとまりを通した自己の変容の実感や技能の向上に役立てられる活用の仕方について、学校教育指導等において指導助言を行う。 ○ 体育エキスパート教員、体育専科教員、中学校体育授業実践スペシャリスト等を講師とした局独自研修(ShiriBeshi Learning BOX)等を通し、児童生徒が見通しをもつ場面、自己の学習活動を振り返って次につなげる場面の具体例を紹介し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られるよう支援していく。
--	--

胆振管内の状況

4市7町

小・中学校

(小学校数:64校 児童数:2,793人、中学校数:43校 生徒数:2,527人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

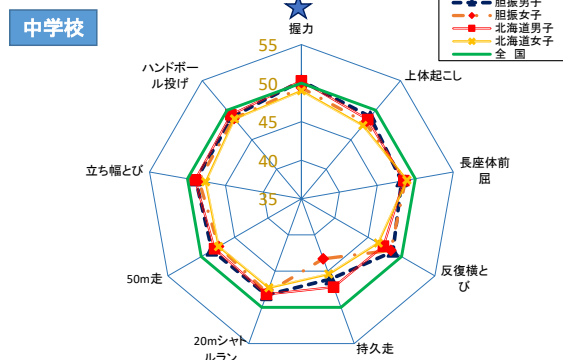
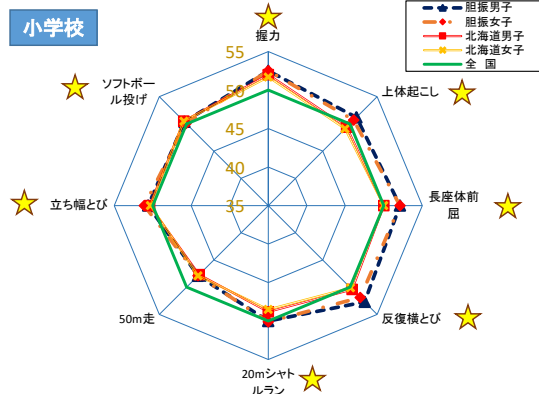
	男子	女子
胆振	53.59	55.19
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
胆振	39.42	44.11
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

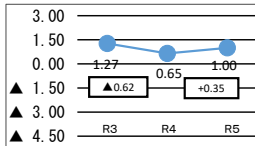
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ★は女子のみ全国平均以上の種目

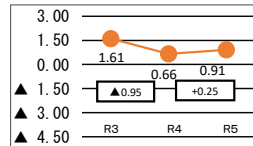


【体力合計点の全国との差とその推移】

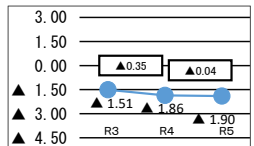
小学校男子



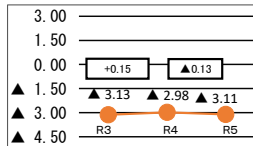
小学校女子



中学校男子



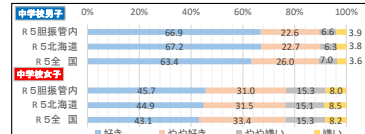
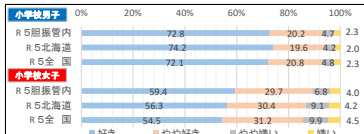
中学校女子



【質問紙調査の状況】

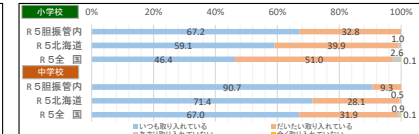
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

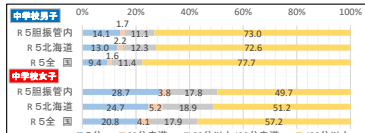
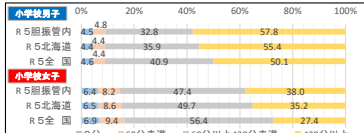


<学校質問紙>

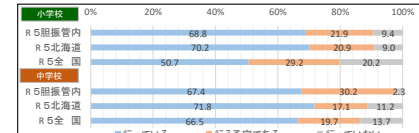
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



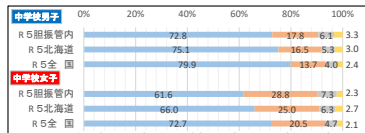
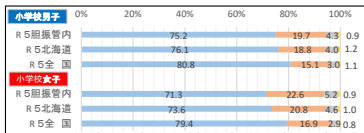
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



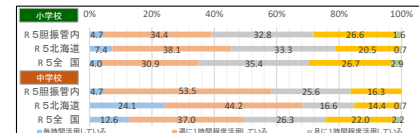
○ 運動・スポーツが楽しいな傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



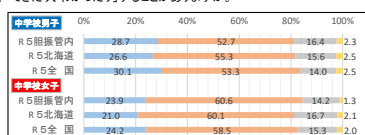
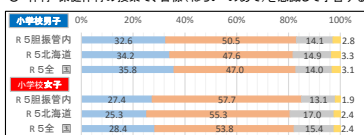
○ 朝食は毎日食べますか。



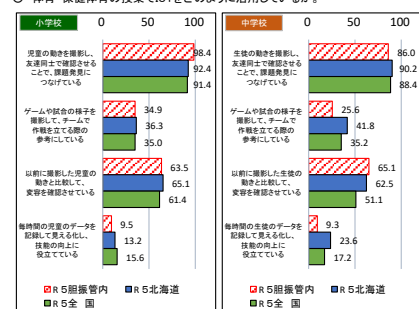
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



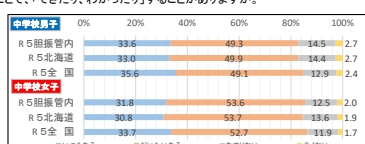
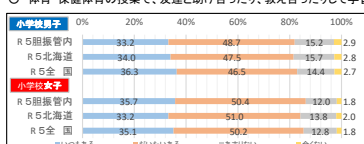
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



実技調査及び質問紙調査の分析

< 小学校 >		< 中学校 >	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.00ポイント、女子が0.91ポイント高い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女共に7種目である。 ○ 体力合計点の全国との差は、昨年度と比較して、男子が0.35ポイント、女子が0.25ポイント縮まった。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が1.90ポイント、女子が3.11ポイント低く、課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が1種目である。 ○ 体力合計点の全国との差は、昨年度と比較して、男子が0.04ポイント、女子が0.13ポイント広がっており、課題である。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているかという設問において、毎時間活用していると回答した学校の割合は全国と比較して0.7ポイント高い。 ○ 運動やスポーツが好きと回答した児童の割合は、全国と比較して、男子が0.7ポイント、女子が4.9ポイント高い。 ○ 体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することが、いつもあると回答した児童の割合は、全国と比較して、男子が3.1ポイント低く、女子が0.6ポイント高い。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているかという設問において、毎時間活用していると回答した学校の割合は全国と比較して7.9ポイント低く課題である。 ○ 運動やスポーツが好きと回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子が3.5ポイント、女子が2.6ポイント高い。 ○ 保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することが、いつもあると回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子が2.0ポイント低く、女子が1.9ポイント低く課題である。

胆振管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1) A体力・運動能力向上に向けた各学校の組織的な取組の徹底及び学校間の連携強化

- 現状分析に基づいた体力向上に向けた組織的・計画的な取組が不十分
- 新体力テスト等の調査を活用した、現状分析に基づく明確な体力向上の目標設定と目標達成に向けた具体的な方策の推進
- 中学校区での取組や成果と課題の共有

(2) B資質・能力の育成に資する主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善

- 現状分析に基づいた授業改善が不十分
- ICTを効果的に活用した自己や仲間の課題の共有及び協働的に課題解決を図る授業づくり
- 体育専科教員、体育エキスパート教員、スペシャリスト(中学校)による管内への授業実践の紹介及び好事例の普及

2 具体的な取組

月	(1)A 体力・運動能力向上に向けた各学校の組織的な取組の徹底及び学校間の連携強化	(2)B 資質・能力の育成に資する主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善
4		
5		
6	学校訪問における検証改善サイクルの確立に向けた指導助言	学校訪問における全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施状況の把握と授業改善に向けた指導助言
7	どさん子元気アップチャレンジの取組	
8		
9		小学校体力向上等推進重点校訪問指導
10		中学校授業実践・改善セミナー
11		胆振管内体力向上指導力向上研修会(体育専科教員による公開授業及び成果普及の取組)
12		
1	○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の調査結果を活用した、成果と課題の把握・検証	
2	○ 次年度の管内教育推進の重点の検討	
3		

3 取組の評価 ※ () は目標値

<p>(1) A 体力・運動能力向上に向けた各学校の組織的な取組の徹底及び学校間の連携強化</p> <p>① 新体力テスト等の調査を活用した、現状分析に基づく明確な体力向上の目標設定と目標達成に向けた具体的な方策の推進(各学校の自己評価)(全小・中学校100%)</p> <p>■ 小学校82.8%、中学校65.9%</p> <p>② 新体力テストの全学年、全種目実施(小学校50%、中学校100%)</p> <p>■ 小学校46.9%、中学校97.7%</p>	<p>(2) B 資質・能力の育成に資する主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善</p> <p>① ICTの日常的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実(各学校の自己評価)(全小・中学校90%以上)</p> <p>■ 小学校71.9%、中学校86.4%</p> <p>② 中学校授業実践・改善セミナーや胆振管内体力向上指導力向上研修会後の授業改善の取組(全小・中学校90%以上)</p> <p>■ 小学校93.3%、中学校92.0%</p>
---	--

4 改善に向けた今後の方向性

<p>(1) A 体力・運動能力向上に向けた各学校の組織的な取組の徹底及び学校間の連携強化</p> <p>○ 検証改善の取組をより組織的、計画的、継続的に、体力・運動能力向上に係る取組をより効果的に、持続可能なものとするために、取組の基盤となる教職員の「役割連携の強化」「ゴールイメージの共有」を図り、「エビデンスの活用」「短期サイクルの創出」で検証方法を明確にして、取組を「精選(焦点化)」「徹底」「継続」するとともに組織的な取組による検証改善サイクルの確立を図ることができるよう学校教育指導訪問等において指導助言する。</p>	<p>(2) B 資質・能力の育成に資する主体的・対話的で深い学びの視点による教育活動の工夫改善</p> <p>○ 体育専科教員、体育エキスパート教員及びスペシャリストを講師とした研修会を通して好事例を普及し、体育、保健体育の授業改善につなげる。</p> <p>○ 児童生徒が学校はもとより、家庭や地域において、自ら運動・スポーツに取り組んでいこうとする気持ちを高め、取り組んでいく習慣を確立することができるよう、学校教育指導訪問等において指導助言する。</p>
---	---

日高管内の状況

7町

小・中学校

(小学校数:24校 児童数:482人、中学校数:15校 生徒数:448人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

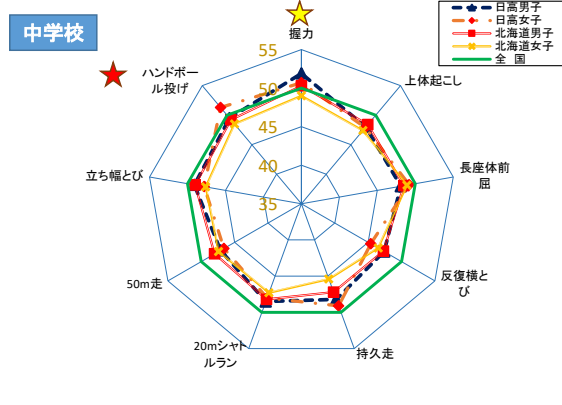
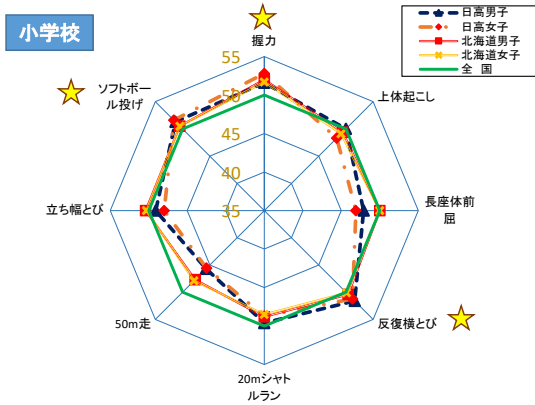
	男子	女子
日高	51.90	53.22
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
日高	39.15	45.25
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

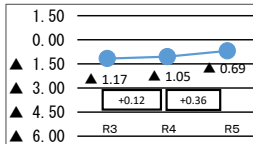
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ★は女子のみ全国平均以上の種目

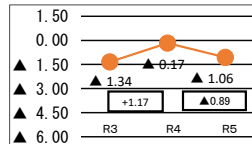


【体力合計点の全国との差とその推移】

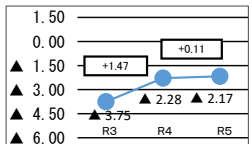
小学校男子



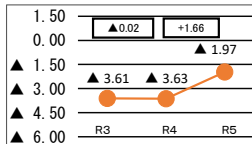
小学校女子



中学校男子



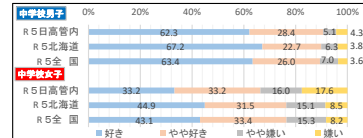
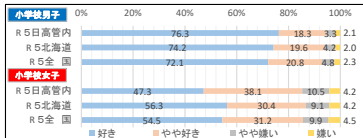
中学校女子



【質問紙調査の状況】

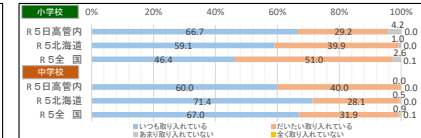
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

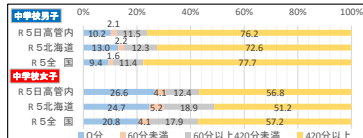
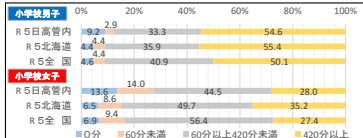


<学校質問紙>

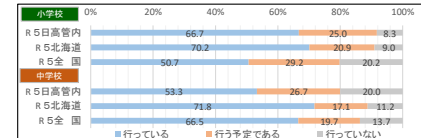
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



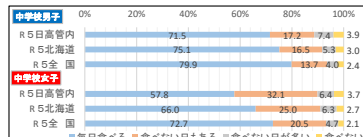
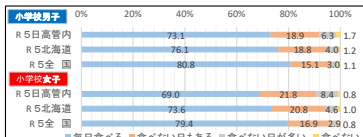
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



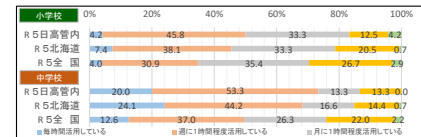
○ 運動・スポーツが女子(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



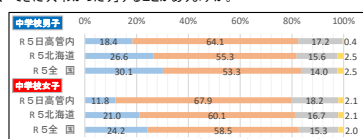
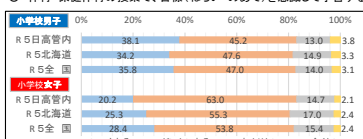
○ 朝食は毎日食べますか。



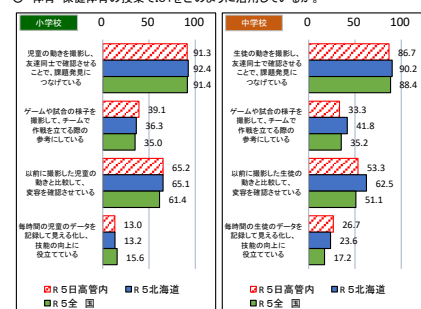
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



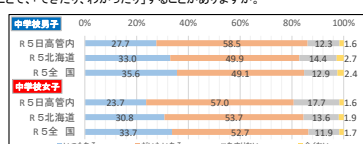
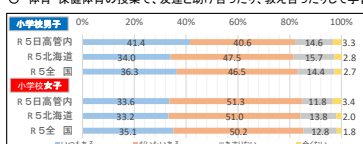
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

< 小学校 >		< 中学校 >	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.69ポイント、女子が1.06ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子は、0.36ポイント、全国との差を縮め、女子は、0.89ポイント、全国との差が開いた。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男女ともに3種目である。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が2.17ポイント、女子が1.97ポイント低く、課題である。 ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男子は0.11ポイント、全国との差が開いたが、女子は1.63ポイント、全国との差を縮めた。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男子が1種目、女子が2種目である。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「体育の授業の目標で、その授業の目標を児童に示す活動をよく取り入れている」と回答した学校の割合は、全国と比較して20.3ポイント高い。 ○ 「体育の授業で目標を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがいっしょある及びたいある」と回答した児童の割合は、全国と比較して、男子は0.5ポイント、女子は1.0ポイント高い。 ○ 「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがいっしょある及びたいある」と回答した児童の割合は、全国と比較して、男子は0.8ポイント、女子は0.4ポイント低く、課題である。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保健体育の授業でICTを毎時間活用している」と回答した学校の割合は、全国と比較して7.4ポイント高い。 ○ 「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがいっしょある」と回答した男子生徒の割合は、全国と比較して、1.5ポイント高い。 ○ 「運動やスポーツすることが好き」と回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子は0.9ポイント、女子は9.9ポイント低く、課題である。

日高管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1)A 体育科及び保健体育科における授業の指導と評価の一体化の推進
- 体育の授業が楽しいと思う理由が「できなかったことができるようになるから」と答えた児童・生徒が多いことから、児童・生徒が確実に資質・能力を身に付けることができるよう授業者が指導事項を踏まえた評価規準を設定し指導を行う必要がある。
 - 小学校体育専科教員等が開催する研修会における体育科・保健体育科の授業における指導と評価の一体化について指導助言
 - 学校教育指導訪問で小学校体育専科教員等による取組の好事例を周知及び体育に係る研修会への積極的な参加促進
- (2)B ICT機器の効果的な活用による指導の充実
- 自分に合った練習の方法でできたりわかったりする機会が少ないという課題が見られることから、体育の授業でICT機器を活用する際、「個別最適な学び」の視点を取り入れた授業改善を図る必要がある。
 - 体力向上に係る授業実践とICT機器の効果的な活用を組み合わせることによる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業改善の取組の推進
- (3)C 小・中学校が連携した体力向上に係る組織的、協働的な取組の推進
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、同業団の小学校と中学校の体力合計点の差が拡大傾向にあることから、体力向上に係る取組の引継ぎを行ったり、課題を共有したりする必要がある。
 - 学校教育指導訪問で近隣の小・中学校が連携して、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果に基づいた成果と課題を共有するよう指導助言
 - 学校教育指導訪問で近隣の小・中学校において実態交流や授業交流が行われるよう体力向上に係る小中連携の好事例を周知

2 具体的な取組

月	(1)A 体育科及び保健体育科の授業における指導と評価の一体化の推進	(2)B ICT機器の効果的な活用による指導の充実	(3)C 小・中学校が連携した体力向上に係る組織的、協働的な取組の推進
4	小学校体育専科教員・小学校体育エキスパート教員・中学校体力向上推進教員との連携		
5	主体的、対話的で深い学びの実現に向けた教育局指導主事による指導助言（通年） 義務教育指導監訪問における指導と評価の一体化に係る指導資料に基づいた指導助言	学校教育指導訪問（1次訪問）における体育・保健体育科の授業でのICT機器の効果的な活用について、指導助言	学校教育指導訪問（1次訪問）で小学校体育専科教員、小学校エキスパート教員及び中学校体力向上推進教員を含む体力向上に係る学校外の人材の活用について、指導助言
6	学校教育指導訪問（1次訪問）における体力向上の取組の現状分析に基づく、数値目標の設定について指導助言	指導主事の学校教育指導訪問及び町教育委員会主催の研修会等における各学校のICT機器の効果的な活用について、指導助言	
7	第1回北海道体力向上推進会議		
8	第1回北海道体力向上推進会議		
9	学校教育指導訪問（2次訪問）における体力向上の取組の現状分析に基づく、数値目標の設定及び指導資料に基づいた、指導助言	学校教育指導訪問（2次訪問）における体育・保健体育科の授業でのICT機器の効果的な活用について、指導助言	学校教育指導訪問（2次訪問）における体力向上に係る小中連携の好事例を周知するとともに全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から見えた課題や解決策について、小・中学校で共有するよう、指導助言
10	体育専科教員、体育エキスパート教員による各町内での授業公開、研修会の実施、巡回指導 体育スペシャリストによる中学校授業実践セミナー開催		どさんこ体力アップ強調月間の取組の推進
11	第2回北海道体力向上推進会議		
12	小学校体育専科教員・小学校体育エキスパート教員、中学校体力向上推進教員による体力向上に係る取組事例の普及		
1	どさんこ元気アップチャレンジ取組の推進		
2			
3	第3回北海道体力向上推進会議		

3 取組の評価

(1)A 体育科及び保健体育科の授業の指導と評価の一体化の推進	(2)B ICT機器の効果的な活用による指導の充実	(3)C 小・中学校が連携した体力向上に係る組織的、協働的な取組の推進
<p>① 体育科及び保健体育科の授業において本時の目標を児童に示す活動を取り入れた割合（全国体力・運動能力・運動習慣等調査学校質問紙結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状…小63% 中73% ・目標…小80% 中85% ・達成値…小66.7% 中60% <p>② 研修会に参加した教員が、自校へ研修内容をよく還元している割合（全国体力・運動能力・運動習慣等調査学校質問紙結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状…小9% 中0% ・目標…小50% 中50% ・達成値…小8.3% 中20% 	<p>① ICT機器の効果的な活用及び教員のICT活用指導力の一層の向上に取り組んでいる学校の割合（管内教育推進の重点評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状…小100% 中86.7% ・目標…小100% 中100% ・達成値…小100% 中100% <p>② 体育・保健体育の授業において、ICTを日常的に活用している学校の割合（全国体力・運動能力・運動習慣等調査学校質問紙結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状…小8% 中7% ・目標…小60% 中60% ・達成値…小50% 中73.3% <p>☒</p>	<p>① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を具体的に示しながら、小・中学校が連携して児童生徒の実態について検証したり、把握したりしている学校の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標…小50% 中50% ・達成値…小63% 中40% <p>② 小・中学校が連携して運動の系統性を理解した上で、体育の授業交流を行っている割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標…小50% 中50% ・達成値…小63% 中40%

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 体育科及び保健体育科の授業の指導と評価の一体化の推進	(2)B ICT機器の効果的な活用による指導の充実	(3)C 小・中学校が連携した体力向上に係る組織的、協働的な取組の推進
<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育・保健体育科の授業において本時の目標を児童に示す活動を取り入れた割合に課題が見られることから、授業者が指導事項を踏まえた評価規準を設定するとともに、児童・生徒と評価規準を共有しながら授業を行うよう、学校教育指導訪問等で指導助言を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科・保健体育科の授業において、ICTの日常的な活用は進んだが、児童・生徒の体力向上に向けた活用となっていないことから、学校教育指導訪問等で、ICTを効果的に活用し、本時に身に付けさせたい資質・能力を児童・生徒が意識しながら学ぶことができるよう、指導助言を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管内の各中学校において、保健体育科担当教員が1名の配置が多く、授業改善に係る校内研修の実施が難しいことから、学校教育指導訪問や日高管内教育研究所・教職員研修センター及び小学校体育専科教員が開催する研修会等において、近隣の小・中学校が連携し、9年間を見通した運動の系統的な指導に係る指導助言を行う必要がある。

渡島管内の状況

2市9町

小・中学校

(小学校数:77校 児童数:2,377人、中学校数:40校 生徒数:2,220人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

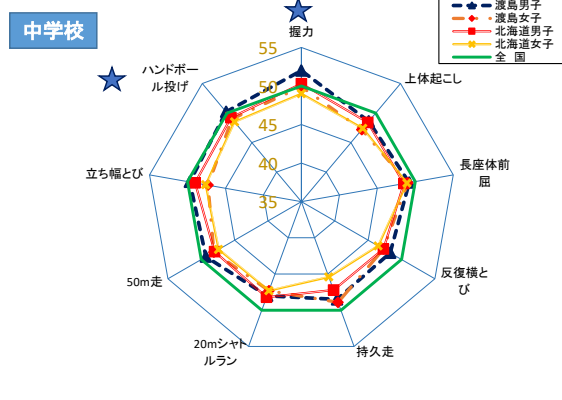
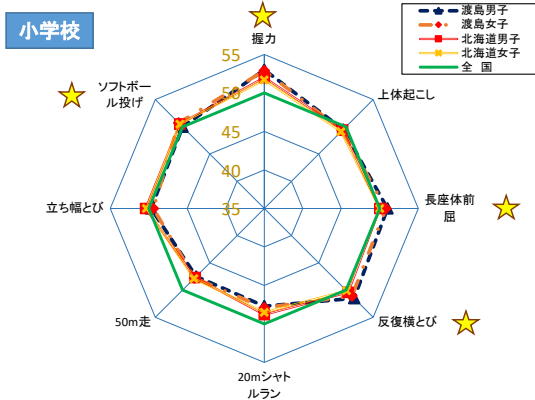
	男子	女子
渡島	52.28	54.09
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
渡島	40.41	44.48
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

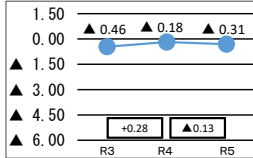
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ☆は男子のみ全国平均以上の種目 ☆は女子のみ全国平均以上の種目

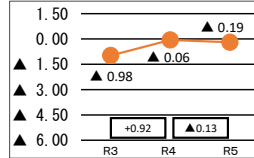


【体力合計点の全国との差とその推移】

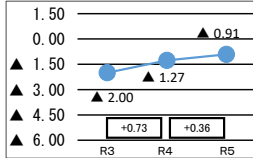
小学校男子



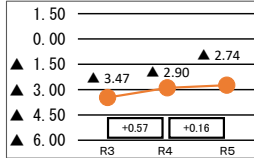
小学校女子



中学校男子



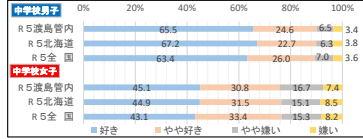
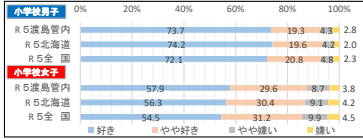
中学校女子



【質問紙調査の状況】

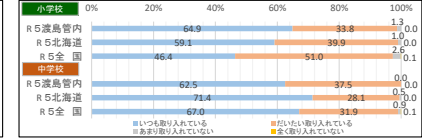
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

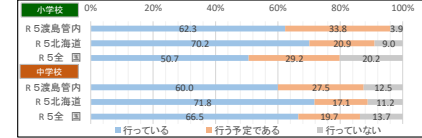


<学校質問紙>

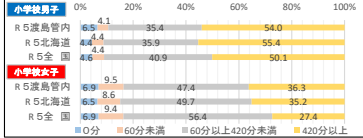
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



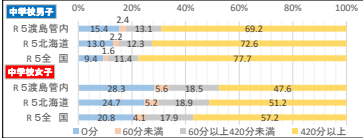
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



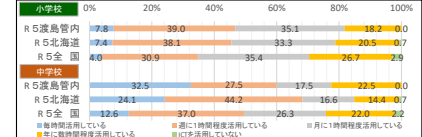
○ 朝食は毎日食べますか。



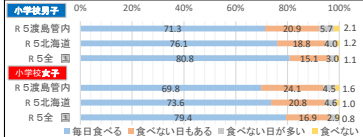
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



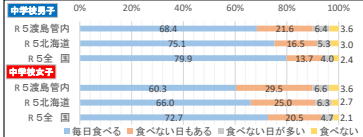
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



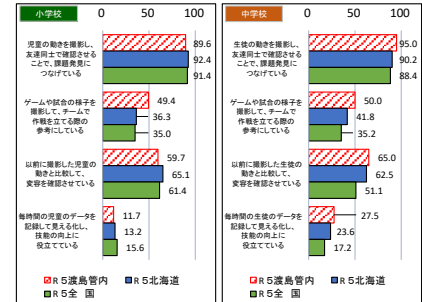
○ 体育・保健体育の授業で、目標(わらひあめて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



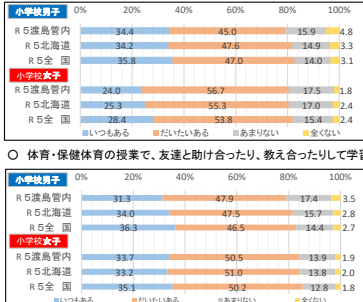
○ 体育・保健体育の授業で、目標(わらひあめて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



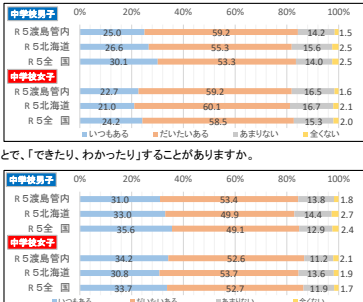
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞	＜ 中 学 校 ＞
実技調査 ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.31ポイント、女子が0.19ポイント低い。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男女共に握力、長座体前屈、反復横とび、ソフトボール投げの4種目である。 ○ 体力合計点の差は、R4調査から、男女共に0.13ポイント広がっている。	実技調査 ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.91ポイント、女子が2.74ポイント低い。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男子の握力、ハンドボール投げの2種目である。 ○ 体力合計点の差は、R4調査から、男子が0.36ポイント、女子が0.16ポイント縮まっている。
質問紙調査 ○ 運動やスポーツをすることは好きであると回答した児童の割合は、男子が73.7%であり、全国より1.6%高く、女子が57.9%であり全国より3.4%高い。 ○ 体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動を取り入れている学校の割合は、64.9%であり、全国より18.5%高い。 ○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童向けの取組、または能力差に応じた取組を行った学校の割合は、62.3%であり、全国より11.6%高い。	質問紙調査 ○ 運動やスポーツをすることは好きであると回答した生徒の割合は、男子が65.5%であり、全国より2.1%高く、女子が45.1%であり全国より2.0%高い。 ○ 保健体育の授業でICTを毎時間活用している学校の割合は、32.5%であり、全国より19.9%高い。 ○ 保健体育の授業でICTを活用して生徒の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につなげている学校の割合は、95.0%であり、全国より6.6%高い。

渡島管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 検証改善サイクルの確立

- 児童生徒の体力・運動能力についての実態把握に基づいた目標を学年別に設定するとともに、児童生徒の個々の体力向上に係る課題設定及び課題解決を図る取組を推進する。
- 新体力テストの結果を活用した授業等の工夫・改善を図るため、全学年の年間指導計画に新体力テストの全種目実施を位置付けるとともに、児童生徒の実態を継続的に把握して学校全体の課題を分析し、体力・運動能力の向上を図る授業の構築を図る。

(2)B 体育・保健体育科の授業改善

- 授業において、資質・能力の育成に向けてICTを効果的に活用した授業改善を図る。
- 体育専科教員活用事業、体育エキスパート教員巡回指導事業、中学校体力向上推進事業における取組を、各学校の授業改善に直結する効果的な実践事例として普及する。

(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立

- 健康の三原則である「運動」「食事」「睡眠」の大切さを理解させることができるよう、栄養教諭、養護教諭と連携した生活習慣及び運動習慣の改善に向けた授業づくりを推進する。
- 体育の授業以外における運動の機会を拡大するため、保護者や地域住民等と連携するとともに、日常的な運動の機会を設定し、望ましい生活習慣及び運動習慣の確立のための取組を推進する。

2 具体的な取組

月	(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 体育・保健体育科の授業改善	(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立
4			
5	↓ 学校教育指導における指導助言 ① 児童生徒の体力・運動能力についての実態把握に基づいた目標を学年別に設定することについての指導助言 ② 全学年の年間計画に新体力テストの全種目実施を位置付けるとともに、児童生徒の実態を継続的に把握して学校全体の課題を分析し、体力・運動能力の向上を図る授業等の工夫・改善を推進する取組についての指導助言	↓ 学校教育指導における指導助言 授業において、資質・能力の育成に向けてICTを効果的に活用した授業改善についての指導助言	↓ 学校教育指導における指導助言 ① 健康の三原則の大切さを理解させることができるよう、栄養教諭、養護教諭が中心となった生活習慣及び運動習慣の改善を図る授業の構築を普及 ② 体育の授業以外の運動機会の設定についての指導助言 ・どさん子元気アップチャレンジについて各市町教育委員会へ周知
6			
7			
8			
9	↓ 学校教育指導における指導助言 ① 新体力テストの結果を活用した体力向上策の検証改善状況の把握及び指導助言 ② 新体力テストの結果分析を生かした教育課程の改善に向けた指導助言 ・体育専科教員及びスペシャリストの公開授業の際に、検証改善サイクルの確立に向けた説明を実施	↓ 学校教育指導において新体力テストの結果を活用した授業改善の状況に応じて指導助言 ・エキスパート教員及び体育専科教員の訪問指導による継続的な指導助言や支援 ・体育専科教員及びスペシャリストの公開授業を基に、児童生徒の体力や運動能力を高める効果的な授業モデルを普及	↓ どの子も元気に活動する機会について各市町教育委員会へ周知 ・冬期間の望ましい生活習慣・運動習慣の確立に向けた学校への指導助言
10			
11			
12			
1			
2	↓ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析及び体力向上策の検証改善に向けた指導助言	↓ 体育エキスパート教員及び体育専科教員を活用した授業改善の事例を管内に周知	
3			

3 取組の評価

(1)A 検証改善サイクルの確立 ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえた取組をしている」と回答する学校の割合を、小・中学校ともに90%とする。 ■小学校96.1%、中学校95.0% ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った」と回答する学校の割合を、小・中学校ともに100%とする。 ■今年度質問目無し	(2)B 体育・保健体育科の授業改善 ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「体育授業及び保健体育授業でICTを活用している」と回答する学校の割合を、小・中学校ともに100%とする。 ■小学校100%、中学校100% ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「研修や研究会に参加し、体力・運動能力の向上に係る取組に反映した」と回答する学校の割合を、小・中学校ともに90%以上とする。 ■小学校74.0%、中学校82.5%	(3)C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立 ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動やスポーツ、児童生徒の体力について家庭と連携する取組を行っている」と回答する学校の割合を、小・中学校ともに100%とする。 ■小学校98.7%、中学校87.5% ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「体育授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組を行っている」と回答する学校の割合を、小学校100%、中学校70%以上とする。 ■小学校90.9%、中学校70%
---	--	--

4 改善に向けた今後の方向性

(1) A 検証改善サイクルの確立 ○ 新体力テストの結果を活用した授業等の工夫・改善を図るため、各学校の実態を踏まえた全体計画と体力向上プランの作成を働きかけるとともに、全教職員の共通理解を促す必要がある。 ○ 児童生徒一人一人の体力向上に係る課題設定及び課題解決の更なる充実を図るため、体力向上に向けた検証改善サイクルを短いスパンで回すよう学校教育指導訪問において指導助言する必要がある。	(2) B 体育・保健体育科の授業改善 ○ 資質・能力の育成に向けてICTをより一層効果的に活用するため、研修への積極的参加を働きかけるとともに、体育専科教員及び体育エキスパート教員の取組を広く管内に普及させる必要がある。 ○ 全ての児童生徒が楽しく、意欲的に取り組むことができる授業に向けて、自己の課題に応じた活動を選択することができる場の設定や教材・教具の工夫の好事例を管内に普及させる必要がある。	(3) C 望ましい生活習慣、運動習慣の確立 ○ 健康の三原則である「運動」「食事」「睡眠」の大切さの理解を深めるために、栄養教諭及び養護教諭、社教班と連携し、学校、家庭、地域が一体となった取組を推進する必要がある。 ○ 体育の授業以外における運動の機会を拡大するため、児童生徒が主体的に運動に取り組む運動機会を創出したり、運動環境を整備したりするなど、組織的・計画的に取組を進めるよう指導助言する必要がある。
---	--	--

檜山管内の状況

7町

小・中学校

(小学校数:17校 児童数:174人、中学校数:10校 生徒数:201人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

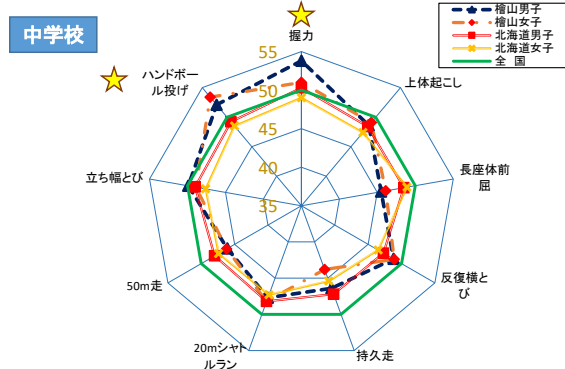
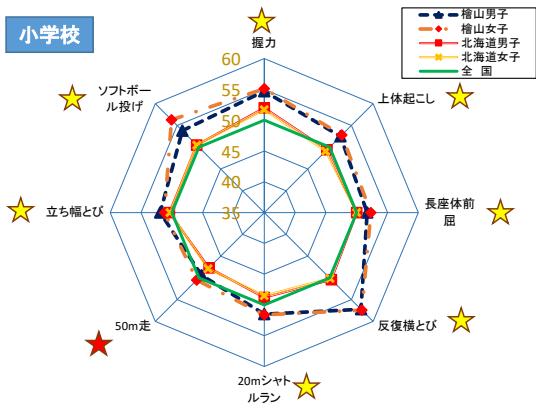
	男子	女子
檜山	56.08	58.73
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
檜山	39.40	45.13
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

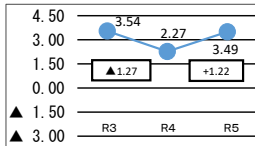
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ☆は男子のみ全国平均以上の種目 ☆は女子のみ全国平均以上の種目

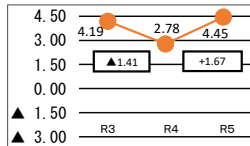


【体力合計点の全国との差とその推移】

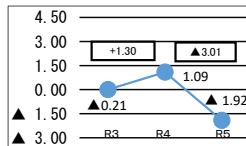
小学校男子



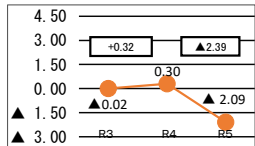
小学校女子



中学校男子



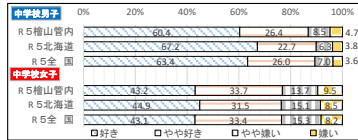
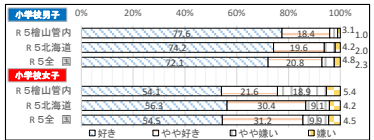
中学校女子



【質問紙調査の状況】

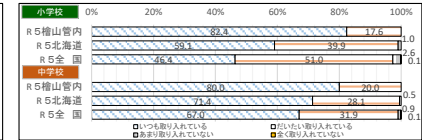
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

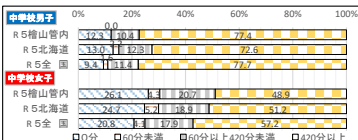
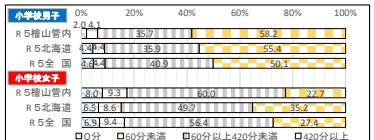


<学校質問紙>

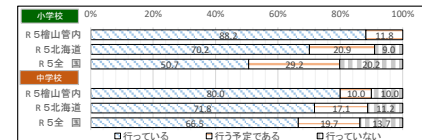
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



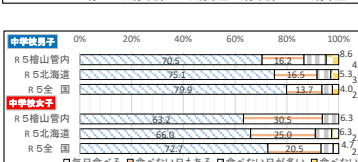
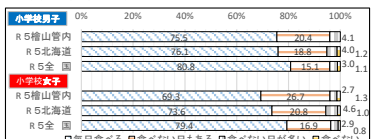
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計して1週間およそどのくらいの時間していますか。



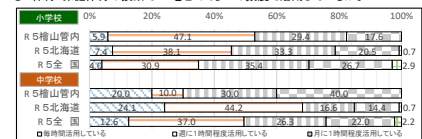
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



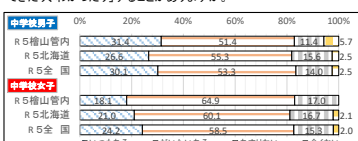
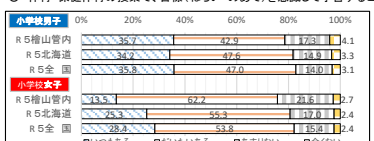
○ 朝食は毎日食べますか。



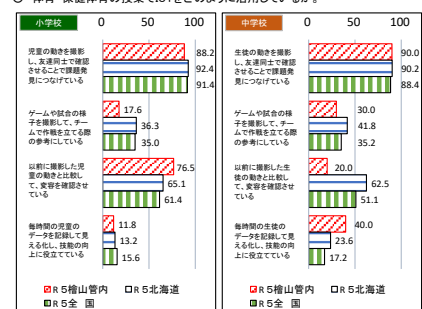
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



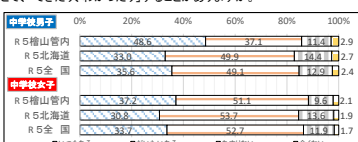
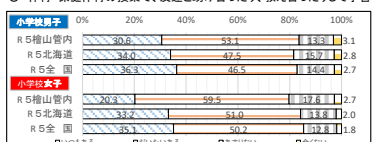
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小学校 ＞	＜ 中学校 ＞
実技調査 ○ 体力合計ポイントは、全国と比較して、男子で3.49ポイント、女子で4.45ポイント上回った。 ○ 各種目のT得点は、男子では8種目中7種目、女子では全種目で全国及び全道を上回った。	実技調査 ○ 体力合計ポイントは、全国と比較して、男子で1.92ポイント、女子で2.09ポイント上回った。 ○ 各種目のT得点は、男女ともに、握力とハンドボール投げで、全国及び全道を上回った。
質問紙調査 ○ 男子において、「授業以外で、運動やスポーツを420分以上行っている」と回答した児童の割合が、全国を8.1ポイント、全道を2.8ポイント上回っている。 ○ 「運動・スポーツが苦手な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っている」と回答した学校の割合が、全国を37.5ポイント、全道を18ポイント上回っている。	質問紙調査 ○ 男女ともに、「保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったり』する」と肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回った。 ○ 「保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を生徒に示す活動をいつも取り入れている」と回答した学校の割合が、全国を13ポイント、全道を8.6ポイント上回った。

檜山管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 根拠に基づいた検証改善サイクルの充実

- 体力向上プランを活用した、効果的な取組を推進するために
 - ・学校教育指導訪問等の際に、各学校が調査結果を基に作成した体力向上プランを活用して、各学校の現状と課題の解決に向けた取組の方向性を確認するなど、短いスパンで自校の取組を検証するとともに、効果的な取組を進めるための具体的な方策について指導助言する。

(2)B 子どもを主語にした授業実践の充実

- 子どもが「できた」「わかった」を実感できる授業実践を進めるために
 - ・自分に合った練習や友達と助け合うことで、体育科における「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実が図られた授業を実践できるよう指導助言する。

(3)C 教職員の資質・能力の向上に向けた取組の充実

- 専科教員等を活用した資質・能力の向上のために
 - ・管内の専科教員やエキスパート教員による「学び合いプロジェクト」の実施や中学校体力向上推進教員による「中学校授業実践・改善セミナー」等の研修の機会を充実させ、教員の授業力向上と管内の体育授業の質の向上を図る。

2 具体的な取組

月	(1)A根拠に基づいた検証改善サイクルの充実	(2)B子どもを主語にした授業実践の充実	(3)C教職員の資質・能力の向上に向けた取組の充実
4			
5		オール檜山「学び合い」プロジェクトを活用した新体力テストに係る研修の実施	
6	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施		
7	要請訪問(学校教育指導訪問)		
8			
9	R4体力調査の結果の分析、管内結果の作成		
10			
11		専科教員・エキスパート教員による重点校視察	
12		中学校体力向上充実セミナー	
1	R5体力調査の結果の分析、管内結果の作成		
2	どさん子元気アップチャレンジや運動習慣形成プログラム「スンスde運動」を参考にした体力向上や運動習慣の形成に向けた取組の実施		
3			

3 取組の評価 ※ () は目標値

※達成値の記号：○目標値を達成、△目標値は非達成だが、昨年度より向上、▲目標値が非達成で、昨年度よりも低下

(1)A根拠に基づいた検証改善サイクルの充実 ① 自分なりの目標を立てている。(Q15) 現 状 (小学校80.8%、中学校76.1%) 目 標 (小学校100.0%、中学校100.0%) 達成値 (小学校▲74.1%、▲中学校72.6%) ② 調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った。(Q6) 現 状 (小学校100%、中学校30.0%) 目 標 (小学校100%、中学校100%) 達成値 (小学校○100.0%、△中学校70.1%)	(2)B子どもを主語にした授業実践の充実 ① 友達と助け合うことで「できたり」「わかったり」することがいつもある。(Q14) 現 状 (小学校31.2%、中学校26.3%) 目 標 (小学校50.0%、中学校50.0%) 達成値 (小学校▲25.9%、△中学校42.9%) ② 能力差に応じた取組を行っている。(Q5) 現 状 (小学校76.5%、中学校70.0%) 目 標 (小学校100%、中学校100%) 達成値 (小学校△88.2%、△中学校80.0%)	(3)C教職員の資質・能力の向上に向けた取組の充実 ① 体育の授業は楽しい。(Q9) 現 状 (小学校69.7%、中学校47.2%) 目 標 (小学校90.0%、中学校70.0%) 達成値 (小学校▲68.4%、△中学校53.2%) ② 校内外の研修会によく参加している。(Q4) 現 状 (小学校17.6%、中学校20.0%) 目 標 (小学校60.0%、中学校60.0%) 達成値 (小学校△23.5%、▲中学校10.0%)
---	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A根拠に基づいた検証改善サイクルの充実 ・各学校は、児童生徒が自身の課題に沿った目標を立て、主体的に運動に取り組むことができるよう、教育局は、オール檜山「学び合い」プロジェクトなどの研修や学校訪問の際に、管内や管外から収集した、好事例を周知する。	(2)B子どもを主語にした授業実践の充実 ・各学校が、子どもが主体的に課題を解決できる授業展開を工夫できるよう、教育局は、体育専科教員やエキスパート教員等による授業実践動画や児童生徒がICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集(スポーツ庁作成)の周知及び活用の促進を図る。	(3)C教職員の資質・能力の向上に向けた取組の充実 ・体育の授業を楽しみたいと感じられていない児童生徒が、一定数いることから、教育局は、「オール檜山『学び合い』プロジェクト」等の各種研修会の機会を活用して、児童生徒が「楽しい」と実感できる授業づくりの工夫や手立てについて研修を行う。
--	--	---

上川管内の状況

4市17町2村

小・中学校

(小学校数:111校 児童数:3,363人、中学校数:61校 生徒数:3,231人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

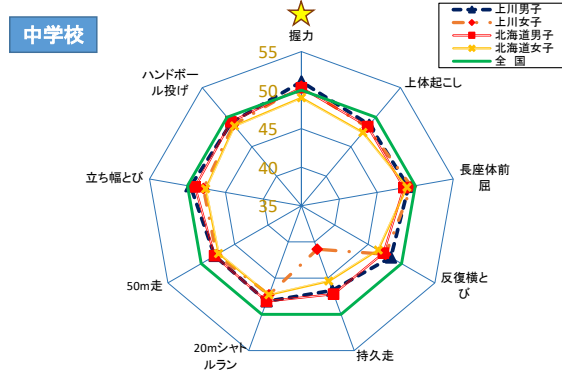
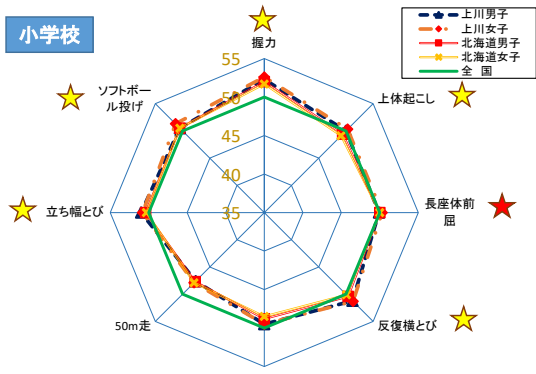
	男子	女子
上川	52.67	54.84
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
上川	39.74	44.84
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

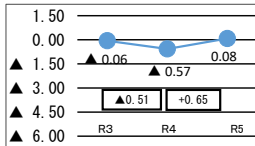
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ☆ は男子のみ全国平均以上の種目 ☆ は女子のみ全国平均以上の種目

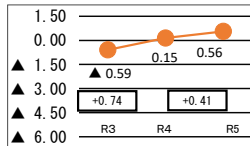


【体力合計点の全国との差とその推移】

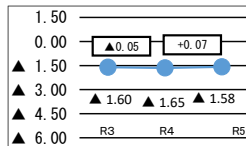
小学校男子



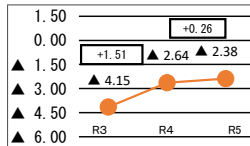
小学校女子



中学校男子



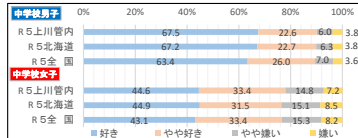
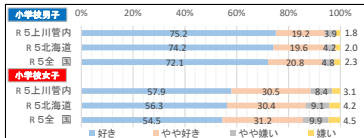
中学校女子



【質問紙調査の状況】

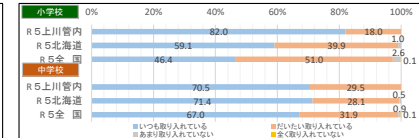
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

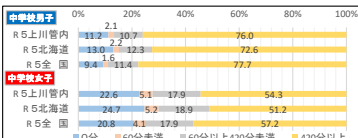
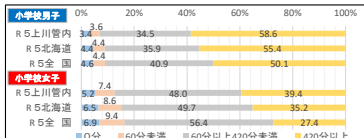


<学校質問紙>

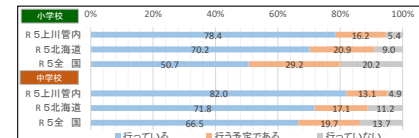
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



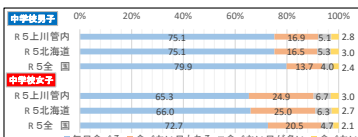
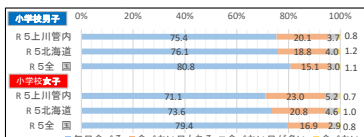
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



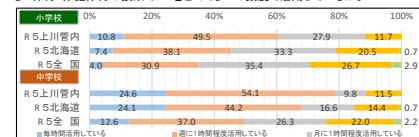
○ 運動(スポーツが得意(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



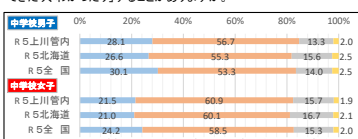
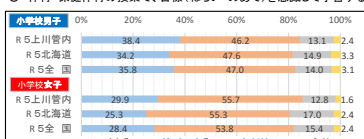
○ 朝食は毎日食べますか。



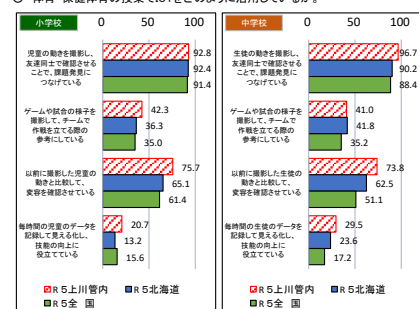
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



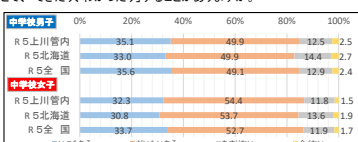
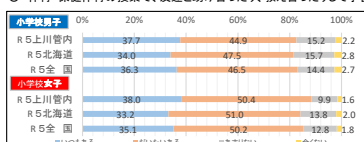
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査 ○ 多くの学校において、休み時間を活用した運動遊びの充実等、授業以外で年間を通して児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行ったことにより、体力合計点が男子は0.08ポイント、女子は0.56ポイント全国平均を上回ったと考える。		実技調査 ○ 多くの学校において、運動やスポーツが苦手な傾向がある生徒向けの取組や、技能の程度に応じた取組を行ったことにより、体力合計点の全国平均との差が、昨年度より男子は0.07ポイント、女子は0.26ポイント縮まったと考える。	
質問紙調査 ○ 多くの学校において令和4年度の調査結果を踏まえて、授業改善に取り組んだことにより、体育の授業は楽しいと回答した児童の割合が、全国を上回ったと考える。 ○ 多くの学校において、体育の授業で話し合う活動を全ての学年で取り入れたことにより、体育の授業で友達と助け合ったり教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」することがいふと回答した児童の割合が、全国を上回ったと考える。		質問紙調査 ○ 多くの学校において、保健体育の授業において、令和4年度の調査結果を踏まえて授業改善に取り組んだことにより、保健体育の学習で、学習したことを振り返る活動があることで「できたり、わかったりする」ことがいふと回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考える。 ○ 多くの学校において、保健体育の授業で以前に履修した生徒の動きと比較させて変更を確認できるようにするなど、週1回以上ICTを活用することにより、保健体育の学習でICTを使って学習することで「できたり、わかったりする」ことがいふと回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考える。	

上川管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)A 運動をすることが好きな児童生徒の育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実 ■ 「体育の授業で週1回以上ICTを活用している」と回答した学校が小学校で55.4%であることから、ICT端末を活用し、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を行う必要がある。 □ 児童生徒全員が授業において、「できた・わかった」と実感したり運動の楽しさを実感したりすることができるよう、見通しと振り返りの充実、ICT端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など質の高い体育・保健体育の授業の普及を目指し、体育専科教員及びエキスパート教員を活用し、研修会を実施する。
(2)B 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組 ■ 「授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を実施していない」と回答した学校が中学校において10.5%あることから、学校の課題に応じた取組を推進する必要がある。 □ 体力向上に向け、組織的な取組とするために、学校全体で体制づくりの充実を図るとともに、各種調査等の結果を活用し、学校の課題を明確にし、体力向上に向けた検証改善サイクルの確立を図るよう学校教育指導訪問で指導助言を行う。
(3)C 家庭・地域と連携した組織的な取組 ■ 「1週間の運動時間が60分未満」と回答した中学校女子が20.3%であることから、学校だけでなく、家庭・地域と連携し、多様な場面で運動する機会の拡充を図る必要がある。 □ 各学校が保護者等に対して、運動の重要性や、スクリーンタイムの短縮、睡眠時間の確保等、望ましい生活習慣の確立を含めた体力向上の取組についての理解を図るための取組が充実するよう、学校教育指導訪問等で好事例を紹介する。

2 具体的な取組

月	(1)A 運動をすることが好きな児童生徒の育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実	(2)B 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組	(3)C 家庭・地域と連携した組織的な取組
4			
5			
6	学校教育指導計画訪問における指導助言	学校教育指導計画訪問における指導助言	学校教育指導計画訪問における指導助言
7			
8			
9	学校教育指導計画訪問における指導助言	学校教育指導計画訪問における指導助言	学校教育指導計画訪問における指導助言
10	↓ 体育専科教員、体育エキスパート教員による訪問指導	↓ 体育専科教員、体育エキスパート教員による訪問指導	↓
11	↓ 体育スペシャリスト教員による授業改善セミナー		
12			↓ 社会教育主事会各ブロック別研究会における情報提供
1	上川版METsによる体力向上の取組の普及		
2			
3			

3 取組の評価 ※ () は目標値

(1)A 運動をすることが好きな児童生徒の育成を目指した体育・保健体育授業の改善充実 ① 1人1台端末を学校全体で共通の活用方法や活用内容を設定して取り組んでいる (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小100%、中100%) ■小学校82.0%、中学校98.0% ② 体育の授業の最後に、その授業で学習したことを振り返る活動があること、「できたり、わかったり」することがある (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小70%、中70%) ■小学校男子78.9%、女子82.0% 中学校男子81.5%、女子83.2%	(2)B 各学校の課題や児童生徒の実態を踏まえた体力向上の取組 ① 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小100%、中100%) ■小学校90.0%、中学校77.0% ② 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好き (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小90%、中90%) ■小学校男子94.4%、女子88.4% 中学校男子90.1%、女子78.0%	(3)C 家庭・地域と連携した組織的な取組 ① 保護者等に対して、子どもの体力向上について理解を図る取組 (体育・保健・安全に関する調査) (小100%、中100%) ■小学校100%、中学校100% ② 学校の体育の授業以外で運動やスポーツをする(週1時間以上) (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) (小80%、中70%) ■小学校男子93.1%、女子87.4% 中学校男子86.7%、女子72.2%
---	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

体育専科教員、体育エキスパート教員による訪問指導及び体育スペシャリスト教員によるセミナー等、対面を実施する研修会を実施することにより授業改善が推進されたことから、運動を苦手と感じている児童生徒への対応等個々の課題に応じた指導の充実に向け、ICTを活用した授業改善を図るための研修会を実施する。	各学校における体力向上の取組について、効果的な検証、改善策の構築に課題が見られることから、「体力向上プラン」等に基づく取組について、調査結果等の分析結果を踏まえた取組内容の検証及び重点化により、各学校におけるカリキュラムマネジメントを促進するよう、学校教育指導訪問で指導助言を行う。	特に中学校女子における体育の授業以外での運動習慣が確立されていないことから、児童生徒の体育・保健体育の授業以外における運動の機会を増やすため、社会教育主事等と連携し、望ましい生活習慣や運動習慣の確立のための取組の情報提供を行うとともに、地域人材を生かした体力向上の取組について好事例を提供し、地域の実態に応じた取組の推進を図る。
--	---	--

留萌管内の状況

1市6町1村

小・中学校

(小学校数:17校 児童数:267人、中学校数:11校 生徒数:238人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

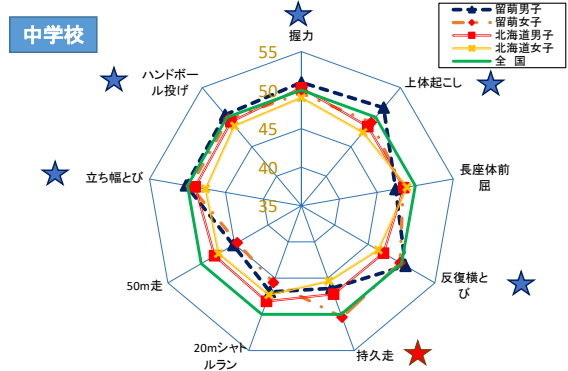
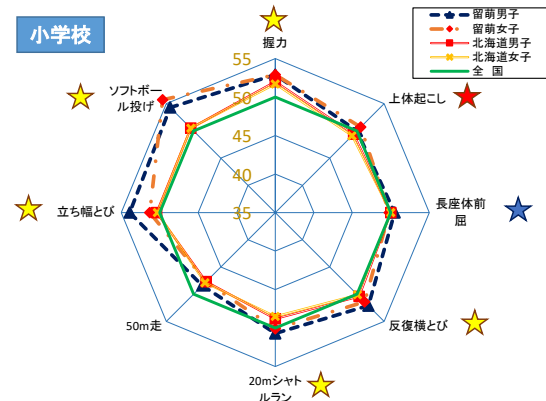
	男子	女子
留 萌	54.30	55.14
北海道	52.23	53.77
全 国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
留 萌	40.24	44.56
北海道	39.36	43.73
全 国	41.32	47.22

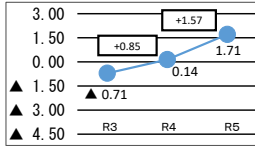
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

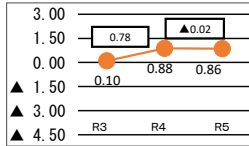


【体力合計点の全国との差とその推移】

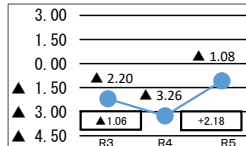
小学校男子



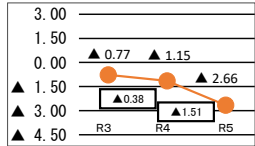
小学校女子



中学校男子



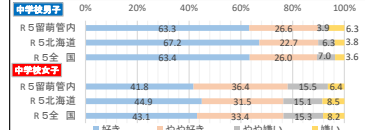
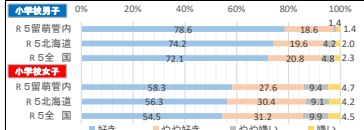
中学校女子



【質問紙調査の状況】

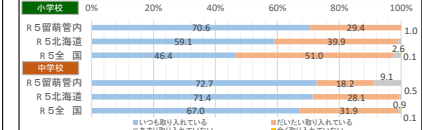
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツすることは好きですか。

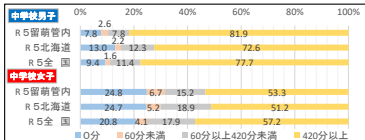
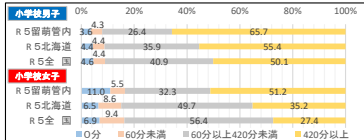


<学校質問紙>

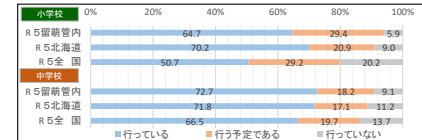
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



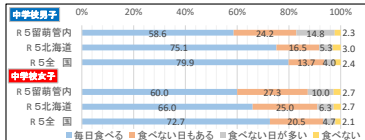
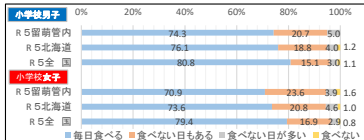
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



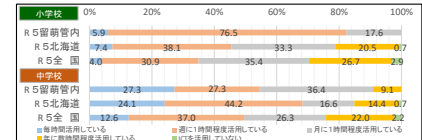
○ 運動・スポーツが女子(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



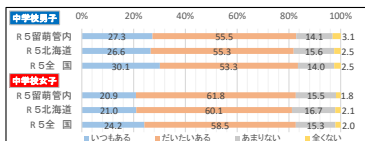
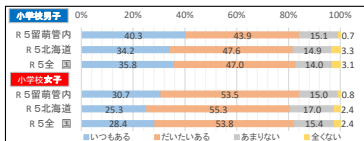
○ 朝食は毎日食べますか。



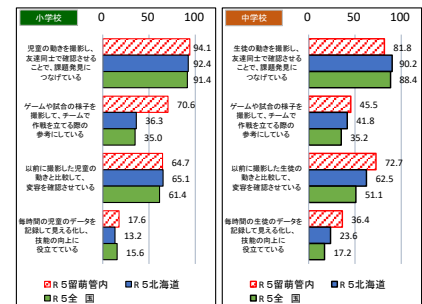
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



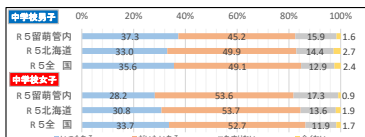
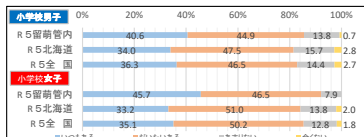
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子1.71ポイント、女子0.86ポイント高い。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男女ともに6種目である。 ○ 体力合計点の差は、男子は全国との差を広げているが、女子は令和4年度より、0.02点低下しており、課題である。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子1.08ポイント、女子2.66ポイント低く、課題である。 ○ 種目別に全国を上回ったのは、男子5種目、女子1種目である。 ○ 体力合計点の差は、令和4年度より、男子は全国との差を縮めているが、女子は1.51点低下しており、課題である。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童向けの取組、または能力差に応じた取組を行った」と肯定的な回答をした学校の割合は94.1%であり、全国と比べて14.2ポイント高い。 ○ 「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好き」と肯定的な回答をした児童の割合は、男子が97.2%で全国より4.3ポイント高く、女子は85.9%であり、0.2ポイント高い。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行った」と肯定的な回答をした学校の割合は0.9%であり、全国と比べて4.7ポイント高い。 ○ 「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好き」と肯定的な回答をした生徒の割合は、男子が89.9%で全国より0.5ポイント高く、女子は78.2%であり、1.7ポイント高い。

留萌管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1) **A教育活動の質の向上**
- 新体力テストを活用・分析し、各学校の課題解決に向けた組織的な取組を継続していくとともに、市町村教育委員会や学校、校長会や教頭会と連携した検証改善サイクルの質的向上
 - 体力・運動能力の向上のための学校全体での数値目標の設定
 - 各学校の課題に応じた創意工夫ある「1校1実践」の組織的な取組の推進
- (2) **B授業改善や体力向上に向けた取組の推進**
- 小学校体育エキスパート教員による体力向上等推進重点校への継続的な指導助言・支援
 - 小学校体育エキスパート教員、中学校体力向上推進教員(スペシャリスト)による小・中の系統性や発達段階を踏まえた授業改善及び成果の普及啓発
 - エキスパート教員、スペシャリストと連携を図った新体力テストの測定に関わる研修会の実施
 - 新体力テストで課題の見られる種目に係る運動機会の確保に向けた授業改善の推進
 - 義務班だより等における各種取組の好事例の提供
- (3) **C学校・家庭・地域が一体となった運動機会の設定**
- 児童・生徒会活動を中心とした異年齢集団等による運動遊びの推進
 - 地域やスポーツ諸団体と連携した地域スポーツ等の行事への積極的な参加促進
 - 学校だよりや学級通信等による体力向上の取組の積極的な周知
 - 各学校の特色を生かした、家庭と連携した体力向上の取組の充実

2 具体的な取組

月	(1)A教育活動の質の向上	(2)B授業改善や体力向上に向けた取組の推進	(3)C学校・家庭・地域が一体となった運動機会の設定
4	・教育長会議・校長会議・教頭(主幹教諭)会議	・教育長会議・校長会議・教頭(主幹教諭)会議	・教育長会議・校長会議・教頭(主幹教諭)会議
5	・校長会理事研(指導監)		
6	・学校経営訪問(指導監) ・学校教育指導訪問(計画①～8月、要請:年間随時) ・教育委員会訪問(要請:年間随時) ・管内小中学校教頭会研究協議会 ・どさん子元気アップチャレンジ(前期～9月)	・学校教育指導訪問(計画①～8月、要請:年間随時) ・教育委員会訪問(要請:年間随時) ・管内小中学校教頭会研究協議会 ・どさん子元気アップチャレンジ(前期～9月)	・学校教育指導訪問(計画①～8月、要請:年間随時) ・教育委員会訪問(要請:年間随時) ・管内小中学校教頭会研究協議会 ・どさん子元気アップチャレンジ(前期～9月)
7	・教育長会議 ・教頭会理事研(支援課長)		
8	・第1回北海道体力向上推進会議 ・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の活用 ・学校教育指導訪問(計画②～10月)	・第1回北海道体力向上推進会議 ・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の活用 ・学校教育指導訪問(計画②～10月)	・第1回北海道体力向上推進会議 ・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の活用 ・学校教育指導訪問(計画②～10月)
9	・校長会理事研(指導監)		
10	・どさん子元気アップチャレンジ(後期～1月) ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問(～12月)	・管内研究団体等での指導助言 ・どさん子元気アップチャレンジ(後期～1月) ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問(～12月)	・管内研究団体等での指導助言 ・どさん子元気アップチャレンジ(後期～1月) ・体育エキスパート教員の重点校指導訪問(～12月)
11	・第2回北海道体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー	・第2回北海道体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー ・義務班だより等における好事例の提供(随時)	・第2回体力向上推進会議 ・中学校授業実践・改善セミナー
12	・教育長会議 ・校長会理事研(指導監)・教頭会理事研(支援課長) ・新体力テストの測定に関わる研修会(増毛町)	・教育長会議 ・新体力テストの測定に関わる研修会(増毛町)	・教育長会議 ・新体力テストの測定に関わる研修会(増毛町)
1	・冬季教頭研修会	・冬季教頭研修会	・冬季教頭研修会
2	・校長会理事研(指導監)		
3	・教育長会議 ・教頭会理事研(支援課長)	・教育長会議	・教育長会議

3 取組の評価 ※ () は目標値

<p>(1)A教育活動の質の向上</p> <p>① 学校段階間の接続を意識した教育課程の編成・実施による幼児教育から高校教育までの円滑な接続(検証改善サイクルの一層の充実) (目標:小3.0、中3.0〔3点中〕) ■達成値:小2.4、中2.7</p>	<p>(2)B授業改善や体力向上に向けた取組の推進</p> <p>① 授業等の工夫・改善を行った(行う予定である)学校 (目標:小100%、中100%) ■達成値:小82.3%、中81.8%</p>	<p>(3)C学校・家庭・地域が一体となった運動機会の設定</p> <p>① 学校、家庭・地域が一体となった子どもの運動機会の設定 (目標:小3.0、中3.0〔3点中〕) ■達成値:小2.9、中2.9</p>
---	---	--

4 改善に向けた今後の方向性

<p>(1) 全教職員によるカリキュラム・マネジメントや検証改善サイクルを生かした体力・運動能力の向上に係る取組及び授業改善が推進されるよう、継続して指導助言を行う。</p>	<p>(2) 指定事業等を効果的に活用し、課題のみられる種目に係る運動機会の確保や、ICTの効果的な活用等による授業改善の推進を図られるよう、指導助言を行う。</p>	<p>(3) 各学校の特色を生かした体力づくりや運動に親しむ機会の設定など、家庭・地域と連携した体力向上の取組が推進されるよう、指導助言を行う。</p>
---	---	--

宗谷管内の状況

1市8町1村

小・中学校

(小学校数:35校 児童数:404人、中学校数:21校 生徒数:387人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

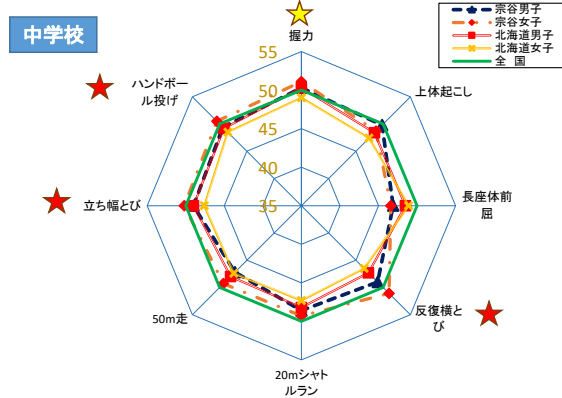
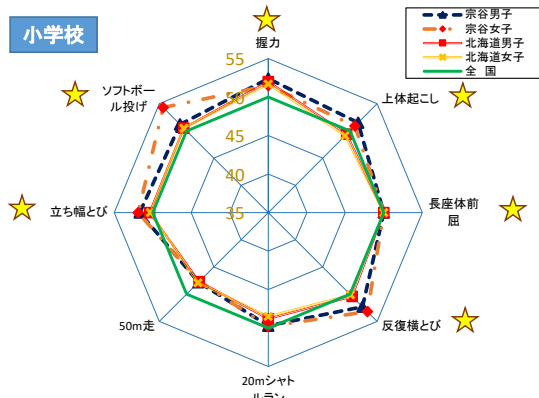
	男子	女子
宗谷	53.72	55.65
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
宗谷	40.04	47.00
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

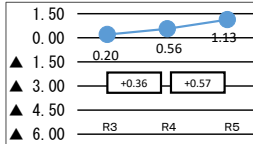
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ☆は男子のみ全国平均以上の種目 ☆は女子のみ全国平均以上の種目

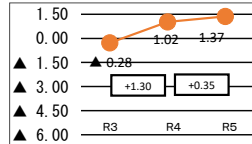


【体力合計点の全国との差とその推移】

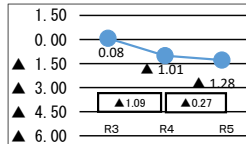
小学校男子



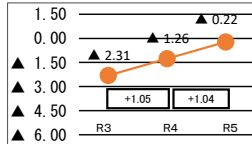
小学校女子



中学校男子



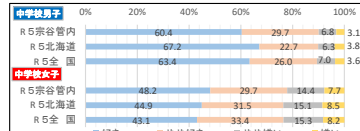
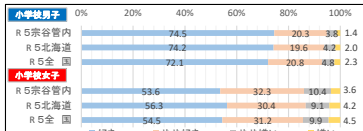
中学校女子



【質問紙調査の状況】

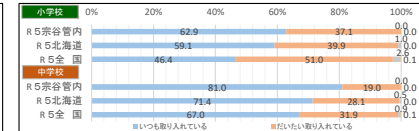
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツすることは好きですか。

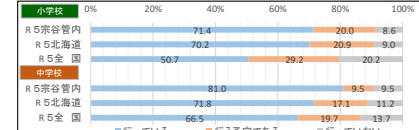


<学校質問紙>

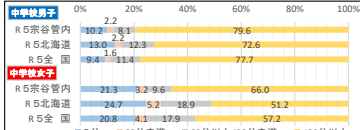
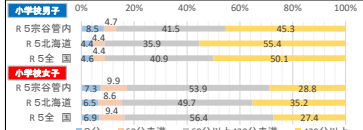
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



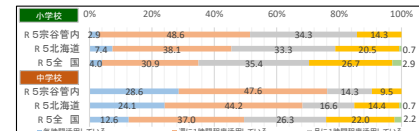
○ 運動・スポーツが楽しいな傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



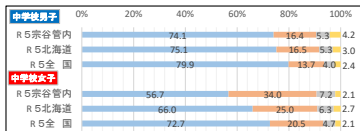
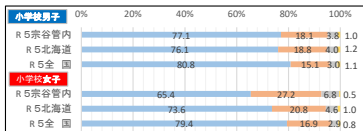
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



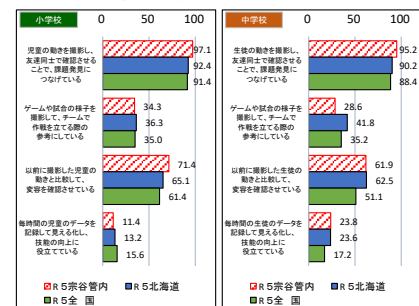
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



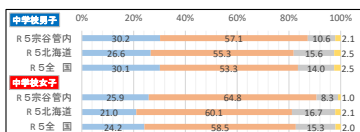
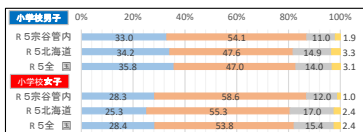
○ 朝食は毎日食べますか。



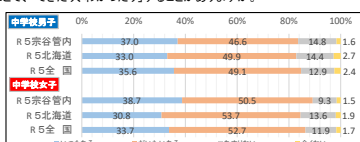
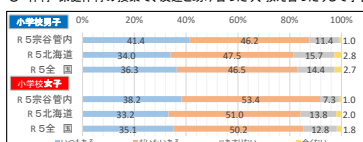
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞	＜ 中 学 校 ＞
<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 過去3年の体力合計点は、年々増加傾向にある中、今年度は男女とも全国平均を1ポイント以上上回るなど、体育専科教員との連携による指導の成果が見られている。 ○ 全国平均を上回った種目は男女ともに6種目あり、令和4年度と比べ上体起こしが加わるなど新体力テストの結果を踏まえた指導の成果が見られている。 	<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 過去3年の体力合計点における全国との差は、令和3年度の男子を除き、全国平均を下回っており、小学校とも連携を図り、体力向上に向けた取組をより一層推進する必要がある。 ○ 全国平均を上回った種目は男子が1種目、女子が4種目で、令和4年度と比べ、男子は3種目減少し、女子は、新たに3種目が加わるなど、新体力テストの結果を踏まえた重点的な指導を計画的に行う必要がある。
<p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての学校が、ICTを活用した授業において、「児童の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につなげている」と回答しており、児童質問紙においては、「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習すること『できたり、わかったり』する」と肯定的に回答する割合が男女ともに全国平均を上回る(男子全国比+3.1ポイント、女子全国比+3.1ポイント)など、ICTを活用した指導の成果が見られている。 	<p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、授業において、「目標を生徒に示す活動を取り入れた」と回答しており、生徒質問紙においては、「目標を意識することで『できたり、わかったり』すると肯定的に回答する割合が、男女ともに全国平均を上回る(男子全国比+0.1ポイント、女子全国比+1.7ポイント)など、学習に対する主体性を育む指導の成果が見られている。

宗谷管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1) 年間複数回の検証改善サイクルの確立

- 新体力テスト等の結果を活用した実態把握及び重点的な取組の明確化
- 明確な目標指標を位置付けた「体力向上プラン」の作成・実施・改善及び中学校区での共有

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革

- 体育専科教員、中学校体力向上推進教員を活用した授業改革に資する研修会の実施
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育・保健体育の授業改革に関する指導資料の作成

(3) 日常的な運動機会の創出

- 家庭や地域と連携を図った運動機会の推進
- 体育授業以外の運動に親しむ場の設定

2 具体的な取組

月	(1) 年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3) 日常的な運動機会の創出
4		○ 体育専科教員との連携による授業改革の推進(～3月)	
5	○ 学校教育指導訪問【一次訪問】 ・児童生徒の体力の状況及び体力向上プランの実施状況の把握		
6			○ 日常的な運動機会の創出の働きかけ(管内独自のどさん子元気アップチャレンジI)
7			
8			
9	○ 学校教育指導訪問【二次訪問】(～12月) ※新体力テストの実施状況の確認及び対力の定着、音楽・運動能力の理解等られる子ども等に対する心や連携を含む指導的、計画的な指導の充実に向けた指導助言	○ 学校教育指導訪問【二次訪問】(～12月) ※子ども一人一人の実態に応じた授業改革及び育成を目指す授業・能力の明確化に向けた指導助言 ○ 小学校体育専科教員サポート事業の実施	
10		○ 子ども一人一人の実態に応じた授業改革及び育成を目指す授業・能力の明確化の好事例の収集及び周知	
11		○ 中学校教員を対象とした「できた」「わかった」を実感する場の工夫に関する研修の実施(授業実践・改善セミナー)	○ 日常的な運動機会の創出の働きかけ(管内独自のどさん子元気アップチャレンジII)
12		○ 小学校体育専科教員サポート事業の実施	
1	○ 体育専科教員・中学校推進教員・教育局による新体力テストの分析 ○ 令和6年度体力向上プランに関する指導助言(教育委員会訪問)	○ 体育専科教員による子ども一人一人の実態に応じた学習活動の工夫改善や指導と評価の一体化に関する研修会の実施	
2			○ 日常的な運動機会の創出の好事例の普及(管内独自のどさん子元気アップチャレンジII)
3	○ 体育専科教員・中学校推進教員・教育局による新体力テストの分析結果を踏まえた改善案の周知		

3 取組の評価 ※ () は目標値

(1)年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3)日常的な運動機会の創出
<p>① 体力テストの全学年・全種目実施 (小・中学校：100%) ■小：100% 中：86%</p> <p>② 調査結果等を踏まえた授業等の工夫・改善 (小・中学校80%以上) ■小：86% 中：86%</p>	<p>① 体育・保健体育の授業が楽しい (男子75%・女子60%以上) ■小：男78.0% 女63.5% ■中：男57.7% 女45.9%</p> <p>② 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがある (小学校70%以上・中学校80%以上) ■小：男41.4% 女38.2% ■中：男37.0% 女38.7%</p>	<p>① 運動(体を動かす遊びを含む)スポーツをすることが好き (小・中学校：70%以上) ■小：男74.5% 女53.6% ■中：男60.4% 女48.2%</p> <p>② 授業以外で、全ての児童生徒に体力・運動能力の向上に係る取組を行った (小・中学校：100%) ■小：100% 中：67%</p>

4 改善に向けた今後の方向性

(1)年間複数回の検証改善サイクルの確立	(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革	(3)日常的な運動機会の創出
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「体力向上プラン」の検証改善サイクルの確立に関する指導資料の作成と指導助言 ○ 教育長会議や校長会議等における体力テストの全学年実施及び課題種目の複数実施に向けた指導助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育専科教員及び中学校体力推進教員との定期的な協議の設定 ○ 体育・保健体育の授業改革に向けたオンライン研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「管内どさん子元気アップチャレンジ」の内容の工夫及びHPでの記録の紹介 ○ 授業以外の時間における体力向上、生活習慣の確立に関する好事例の収集と普及

オホーツク管内の状況

3市14町1村

小・中学校

(小学校数:77校 児童数:1,944人、中学校数:49校 生徒数:1,810人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

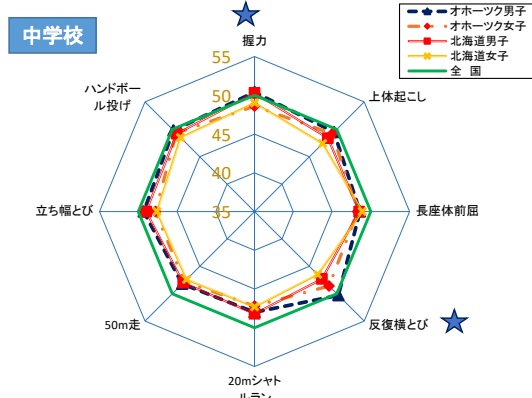
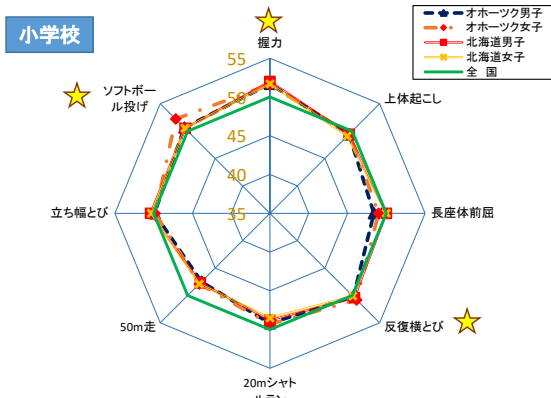
	男子	女子
オホーツク	51.82	53.99
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
オホーツク	40.02	44.53
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

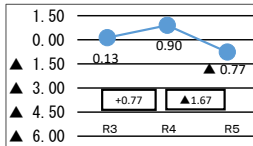
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ▲は女子のみ全国平均以上の種目

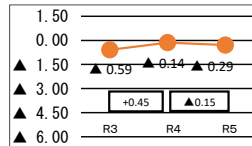


【体力合計点の全国との差とその推移】

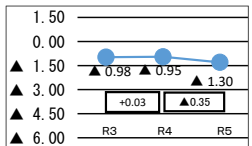
小学校男子



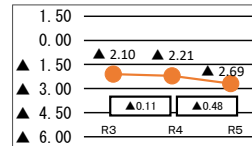
小学校女子



中学校男子



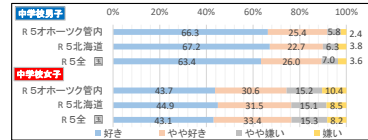
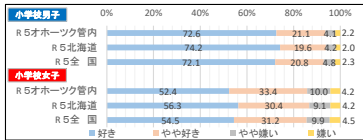
中学校女子



【質問紙調査の状況】

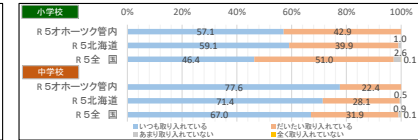
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツすることは好きですか。

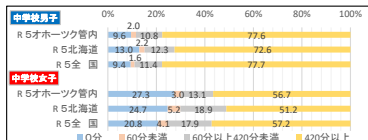
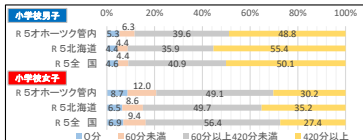


<学校質問紙>

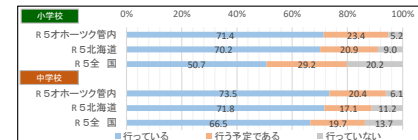
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



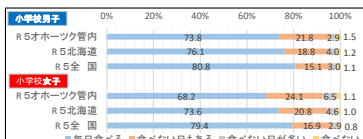
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそどのくらいの時間していますか。



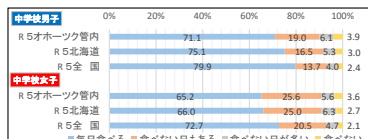
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



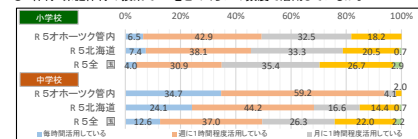
○ 朝食は毎日食べますか。



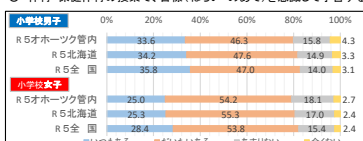
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めど)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



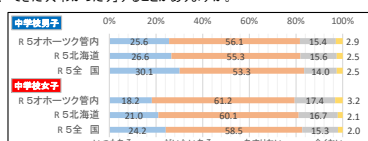
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



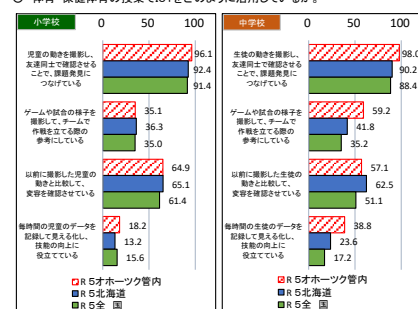
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めど)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



○ 体育・保健体育の授業で、ICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞	＜ 中 学 校 ＞
<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男女ともに低くなっており、全国と比較して、男子が0.77ポイント、女子が0.29ポイント低く、課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男女ともに3種目である。 <p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童向けの取組、または能力差に応じた取組を行っている」と回答した学校の割合は、全国と比較して、20.7ポイント高いが、「体育の授業で、目標(ねらいめあて)を意識して学習することで、できたり、わかつたりする」と回答した児童の割合は、全国と比較して、男子が2.2ポイント、女子が3.4ポイント低く、課題である。 	<p>実技調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、昨年度と比較して、男女ともに低くなっており、全国と比較して、男子が1.30ポイント、女子が2.69ポイント低く、課題である。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子が2種目である。 <p>質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っている」と回答した学校の割合は、全国と比較して、7.0ポイント高いが、「保健体育の授業で、目標(ねらいめあて)を意識して学習することで、できたり、わかつたりする」と回答した生徒の割合は、全国と比較して、男子が4.5ポイント、女子が6.0ポイント低く、課題である。

オホーツク管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策（課題：●、改善策：□）

<p>(1)A 新体力テスト等の結果の分析を踏まえた体育・保健体育科の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「運動やスポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童・生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っている」と回答した学校の割合が70%程度にとどまっていることから、個に応じたきめ細やかな指導の充実等、学校全体で授業改善を図る必要がある。 □ 学校教育指導において、新体力テスト等の結果を踏まえ、学校全体で体力・運動能力の向上を図れるよう継続的な指導及び助言を行う。 □ 体育エキスパート教員及び体育専科教員と連携し、学校訪問等において、学校課題の改善状況の確認と指導助言を行う。 <p>(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できると回答した学校の割合が80%程度であることから、一層の取組の充実を図る必要がある。 □ 各種調査結果等を踏まえ、「オホーツク運動プログラム」等の活用や研修事業等を活用した授業改善の取組の充実が図られるよう指導及び助言を行う。 <p>(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「中学校進学後(卒業後)、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」と回答した児童生徒の割合が60%程度であることから、地域と連携した取組の一層の充実を図る必要がある。 □ 社会教育指導班と連携し、教育委員会及び地域住民に運動習慣形成に係る情報提供及び学校と地域が連携した実践事例を教育局Webページに掲載する。

2 具体的な取組

月	(1)A 検証改善サイクルに基づいた体育・保健体育科の授業改善	(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実	(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実
4		「オホーツク運動プログラム」取組(通年)	
5	学校教育指導(1次協議)において、学校課題の改善状況を確認	学校教育指導(1次協議)において、「オホーツク運動プログラム」の活用状況を確認	「オホーツク運動プログラム」を教育局Webページに掲載し、家庭での運動機会の確保を啓発
6	↓	↓	↓
7			
8	学校教育指導(2次協議)において、学校課題の改善状況を確認	学校教育指導(2次協議)において、「オホーツク運動プログラム」の活用状況を確認	
9	↓	↓	↓
9	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問において、学校課題の改善状況の確認と指導助言	体育エキスパート教員及び体育専科教員による学校訪問において、「オホーツク運動プログラム」の活用状況を確認	
10			市町村教育委員会社会体育担当者研修会での管内状況に係る情報提供
11			
12			
1	各学校へのコンサルティング(3次協議)において、学校課題の改善状況を確認	各学校へのコンサルティング(3次協議)において、達成状況を確認	体力向上に係る学校と地域が連携した実践事例を教育局Webページに記載
2	↓	↓	
3			

3 取組の評価

<p>(1)A 新体力テスト等の結果の分析を踏まえた体育・保健体育科の授業改善</p> <p>①「運動やスポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または技能の程度に応じた取組を行っている」(R5全国調査学校質問紙調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現 状：小…71.1%、中…73.5% ・目 標：小…80.0%、中…80.0% ■達成値：小…71.4%、中…73.5% <p>②「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行っている」(R5全国調査学校質問紙調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現 状：小…78.9%、中…79.6% ・目 標：小…80.0%、中…80.0% ■達成値：小…92.2%、中…81.6% 	<p>(2)B 体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による取組の充実</p> <p>①「体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できる」(R5管内教育推進の取組柱1⑦(2))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現 状：小…88.3%、中…71.4% ・目 標：小…90.0%、中…75.0% ■達成値：小…89.6%、中…73.5% <p>②「体育授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」(R5全国調査学校質問紙調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■達成値：小…89.6%、中…67.3% 	<p>(3)C 家庭や地域と連携を図った取組の充実</p> <p>①「中学校進学後(卒業後)、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」(R5全国調査児童生徒質問紙調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現 状：小(男子)…67.3%、小(女子)…54.4% 中(男子)…58.9%、中(女子)…41.7% ・目 標：小・中(男子)…70.0% 小・中(女子)…60.0% ■達成値：小(男子)…63.7%、小(女子)…52.1% 中(男子)…61.7%、中(女子)…41.1%
--	--	---

4 改善に向けた今後の方向性

<p>【●：課題、□改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年度全国調査学校質問紙調査において、「運動やスポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または技能の程度に応じた取組を行っている」と回答した学校の割合が小・中学校ともに目標値を下回っている。 □ 体育・保健体育授業において、全ての児童生徒が運動の多様な楽しみ方を共有することができる授業改善のポイントについて学校教育指導や小学校体育エキスパート教員巡回事業等を活用し、指導助言する。 	<p>【●：課題、□改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年度オホーツク管内教育推進の取組に係る年度末評価において、「体育・保健体育授業以外の学校の創意工夫による体力・運動能力の向上の取組を推進し、成果が表れた、もしくは成果が期待できる」と回答した学校の割合が小・中学校ともに目標値を下回っている。 □ 「どさん子元気アップチャレンジ」の取組や「オホーツク運動プログラム」の活用等、授業以外の学校の創意工夫による1校1実践の取組の確実な実施等の体力向上策を推進し、運動機会の充実が図られるよう指導助言する。 	<p>【●：課題、□改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年度全国調査児童生徒質問紙調査において、「中学校進学後(卒業後)、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う」と回答した児童生徒の割合が、中学校男子以外で昨年度に比べ低下している。 □ 社会教育指導班と連携し、児童生徒の体力向上に向けた資料や運動を促すリーフレットを各研修会等で普及及び活用するなど、児童生徒の日常的な運動習慣の形成を図る。
---	---	--

十勝管内の状況

1市16町2村

小・中学校

(小学校数:84校 児童数:2,599人、中学校数:48校 生徒数:2,479人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

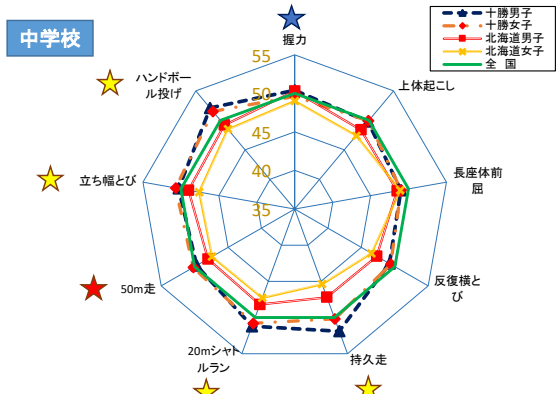
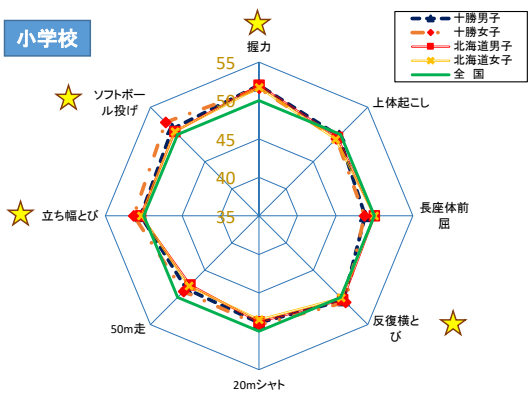
	男子	女子
十勝	52.36	54.49
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
十勝	41.60	47.52
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

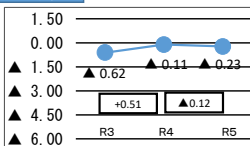
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆は男女ともに全国平均以上の種目 ★は男子のみ全国平均以上の種目 ☆は女子のみ全国平均以上の種目

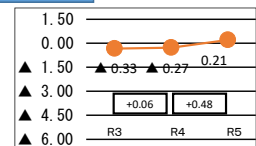


【体力合計点の全国との差とその推移】

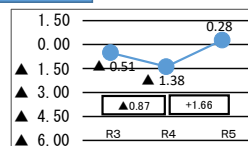
小学校男



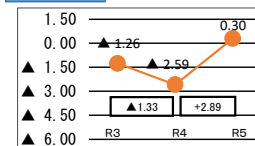
小学校女



中学校男



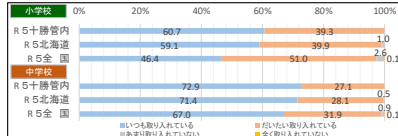
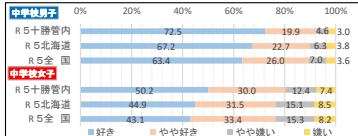
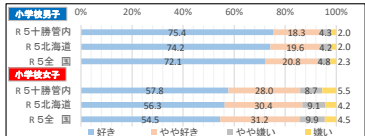
中学校女



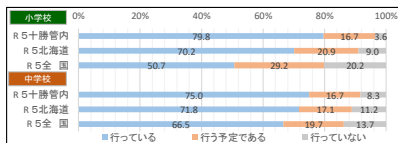
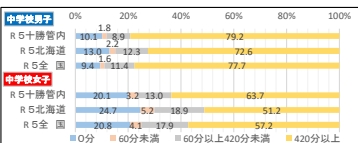
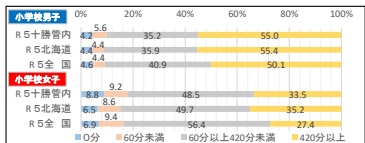
【質問紙調査の状況】

<児童生徒質問紙>

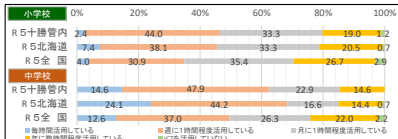
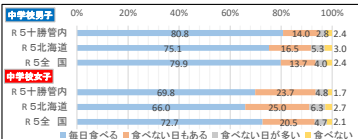
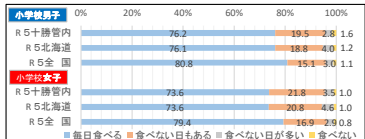
○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



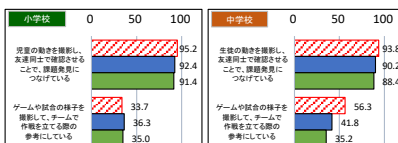
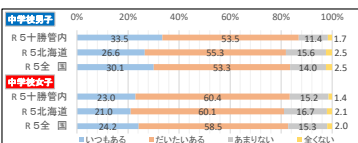
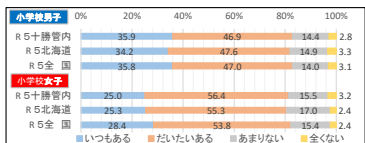
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計1週間およそどのくらいの時間していますか。



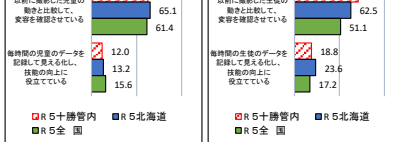
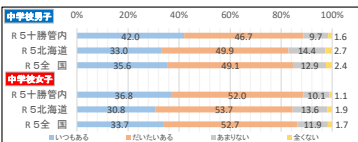
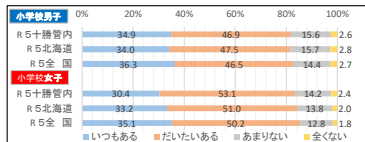
○ 朝食は毎日食べますか。



○ 体育・保健体育の授業で、目標(わらいないめ)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

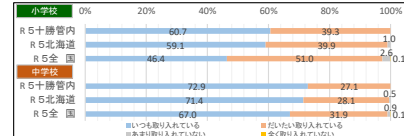


○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。

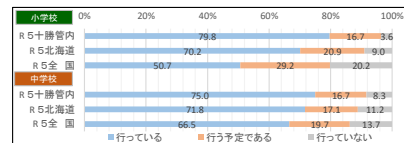


<学校質問紙>

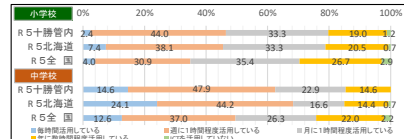
○ 体育・保健体育の授業の質で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



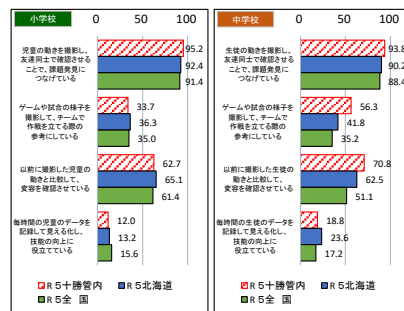
○ 運動・スポーツが苦手な児童がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っていますか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



実技調査及び質問紙調査の分析

< 小学校 >		< 中学校 >	
実技調査	各学校において、体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動を取り入れるとともに、ICTを活用し、児童の動きを撮影し、友達同士で確認させ、課題発見につながる活動を行ったことにより、「筋力」「敏捷性」「瞬発力」「巧緻性」に係る4種目において、男女ともに全国平均を上回ったと考える。	実技調査	各学校において、体育の授業の冒頭で、その授業の目標を生徒に示す活動を取り入れるとともに、ICTを活用し、以前に撮影した児童の動きと比較して、姿容を確認させる活動を行ったことにより、「全身持久力」「瞬発力」「巧緻性」に係る4種目において、男女ともに全国平均を上回り、「筋力」に係る1種目において、男子の数値が全国平均を上回り、「スピード」に係る1種目において、女子の数値が全国平均を上回ったと考える。
質問紙調査	運動・スポーツが苦手な傾向がある児童向けの取組や能力差に応じた取組を行ったことにより、男女とともに、運動やスポーツをするのは好きと回答した児童の割合が全国平均を上回るとともに、授業以外で運動やスポーツを行う1週間の合計時間が420分以上であると回答した児童の割合が全国平均を上回ったと考える。	質問紙調査	ICTを活用し、ゲームや試合の様子を撮影して、動画を参考にチームで作戦を立てたり、生徒の動きを撮影し、友達同士で確認させることで、課題発見につながる活動を行ったことにより、男女とともに、運動やスポーツをするのは好きと回答した生徒の割合が全国平均を上回るとともに、保健体育の授業で友達と助け合ったり、教え合ったりする学習をすることで、「できたり、わかったり」することがいっしょであると回答した生徒の割合が全国平均を上回ったと考える。

十勝管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1) A 検証改善サイクルの確立**
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた検証改善サイクルの確立が管内の小・中学校において、十分でないことから、1年間の検証改善サイクルのモデルを示す必要がある。
 - 組織力向上に関する中間評価を実施し、取組の成果と課題を明確にするとともに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた改善の方策を検討するようマネジメントする。
 - 継続した体力向上の取組が進んでいると考えられることから、複数回の検証改善の機会を充実させる。
- (2) B 授業改善の推進**
- 検証改善サイクルの確立と連動させ、体育科、保健体育科の授業における授業改善の推進を図る。
 - 小学校体育専科教員、エキスパート教員、スペシャリスト教員、管内保体サークルと連携を図り、授業改善の方向性を明確にした授業の動画を作成し、体力向上を踏まえた授業の在り方のパッケージ化を図る。
 - 授業改善を推進する視点に、ICT活用を位置付け、期待される効果や資質能力の育成ができるよう、動画を活用した研修や指導助言等を通して、授業改善を層推進させる。
- (3) C 運動習慣形成のための環境整備**
- 検証改善サイクルを踏まえ、校地内における児童生徒が運動に関心をもつことのできる掲示、環境を意図的に整備する。
 - 児童生徒が日常的に運動に親しむ環境整備に係る好事例について、HP等を活用し、情報提供する。

2 具体的な取組

月	(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 授業改善の推進	(3)C 運動習慣形成のための環境整備
4	第1回市町村教育委員会訪問、学校経営指導訪問、教育局計画訪問(前期)において、体力向上に係る学校課題を管理職等と共有		
5	・新年度体制にあたり、各学校の体力向上に係る取組について再度全校職員で共有を図り、新体力テストを実施する。	・新体力テスト実施に向けた、スケジュール等を明確にするとともに、単元の技能と新体力テストの項目との関連を図る。	・自校の運動習慣を高めさせるための環境整備の構築を計画する。
6	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施等		
7	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の自校分析や北海道縦断結果報告書を基に、自校の体力向上に関する課題を明確にする。	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の自校分析や北海道縦断結果報告書を基に、自校の1年間の取組を全校職員で検証し、成果と課題を明確にする。	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の自校分析や北海道縦断結果報告書を基に、運動に関する児童生徒の意識について分析し、環境整備の修正の方向性を検討する。
8			
9	・自校の体力向上に係る課題を基に、授業改善の方向性を共有する。(体育専科教員等の活用)		
10	・体力向上に成果を挙げている学校を訪問し、取組について検証を行う。	・中学校体力向上推進教員による指導力及び資質能力向上に係る研修会の実施	・体力向上に関して、家庭との連携を図り、学校・家庭の両輪での協働体制の構築を図る。
11	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の提供等		
12	・組織力向上に関する中間評価を実施し、各学校における体力向上マネジメントの推進状況を把握と開示。	・授業改善の方向性を明確にした授業動画の作成。 ・体育専科教員等による体育科・保健体育科の授業改善に向けた研修会の実施。	・体育専科教員、エキスパート教員と連携を図り、好事例についての情報を収集する。
1			
2	・組織力向上に関する最終評価を実施し、各学校における体力向上マネジメントの推進状況を把握。 ・体力向上に向けた好事例の発信。(取組事例・映像資料)	・授業改善の方向性を明確にした授業動画の発信。 ・新体力テストの複数回実施による、取組の方向性の検証。	・体力向上に向けた環境整備に関する好事例の提供。
3	第2回教育委員会訪問において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた年間指導計画改善状況及び各学校における組織的な体力向上マネジメントの進捗状況を管理職と共有及び成果と課題の明確化		

3 取組の評価 ※ () は目標値

(1)A 検証改善サイクルの確立	(2)B 授業改善の推進	(3)C 運動習慣形成のための環境整備
① 数値目標を設定し、達成状況を検証する時期や方法を全て含めて全員で共有した学校の割合(8月と比較) ・現状 小・・・61.9% (▲6.1) 中・・・37.5% (▲16.5) ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0%	① 体育、保健体育の授業の目標を児童生徒に示す活動を常に取り入れている学校の割合(R4と比較) ・現状 小・・・60.7%(6.7) 中・・・72.9%(0.9) ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0%	① 体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行った学校の割合(8月と比較) ・現状 小・・・89.3%(▲8.7) 中・・・75.0%(▲21.0) ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0%
② 担当者等が校内研修等で分析結果を説明するとともに、全員で改善方策について協議し、共有した学校の割合(8月と比較) ・現状 小・・・47.6% (7.6) 中・・・27.1% (▲2.9) ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0%	② 体育及び保健体育の授業は楽しいと考える児童生徒の割合(R4と比較) ・現状 小・・・70.5%(13.5) 中・・・52.5%(▲4.5) ・目標 小・・・90.0% 中・・・90.0%	② 家庭や社会教育と連動して、児童生徒が日常的に運動に親しむ機会を増やす取組を行った学校の割合(8月と比較) ・現状 小・・・97.6%(2.6) 中・・・93.8%(2.8) ・目標 小・・・100.0% 中・・・100.0%

4 改善に向けた今後の方向性

(1)A 検証改善サイクルの確立 ・中間評価(8月)との比較において、小・中ともに、数値目標に対する検証が十分に行われていないことから、年間を通じた体力向上の検証改善サイクルを確立し、複数回の検証改善の実施を通して、体力向上の取組事項を明確にするため、教育委員会訪問や年度当初の学校教育指導訪問で確認する必要がある。	(2)B 授業改善の推進 ・令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査学校質問紙及び児童生徒質問紙において、授業改善の推進が図られていることが認められることから、次年度は、新たにICT活用の場面と期待される効果を明確にし、各種会議における周知や授業の在り方パッケージの配信を通して、積極的なICT活用を促す必要がある。	(3)C 運動習慣形成のための環境整備 ・中間評価(8月)との比較において、体力向上に関する取組が、下降する傾向にあることから、下半期の取組を充実させるとともに、学校の体力向上策と社会教育による体力向上策について、連携を図るよう、教育委員会訪問や学校教育指導訪問において確認する必要がある。
---	---	--

釧路管内の状況

1市6町1村

小・中学校

(小学校数:54校 児童数:1,389人、中学校数:35校 生徒数:1,348人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

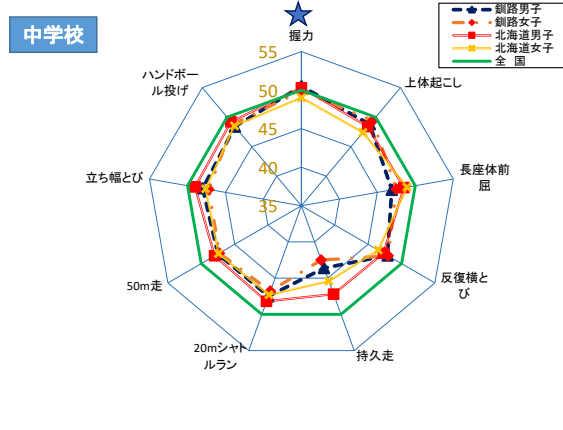
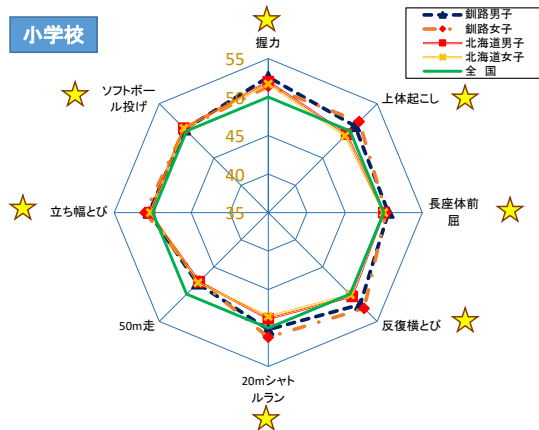
	男子	女子
釧路	53.10	55.13
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
釧路	38.24	43.77
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

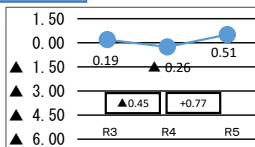
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

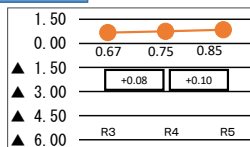


【体力合計点の全国との差とその推移】

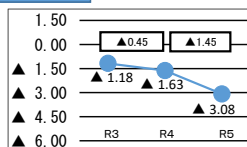
小学校男子



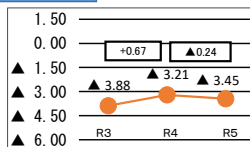
小学校女子



中学校男子



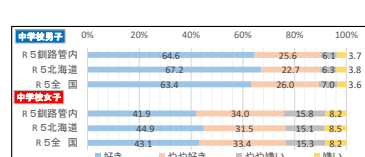
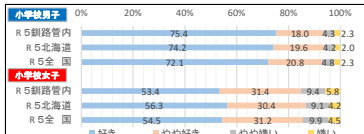
中学校女子



【質問紙調査の状況】

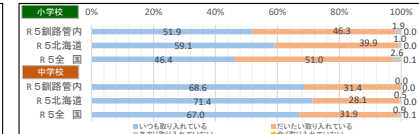
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツすることは好きですか。

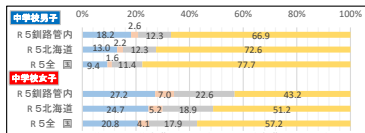
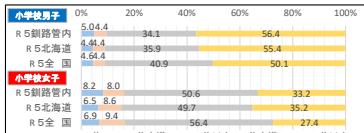


<学校質問紙>

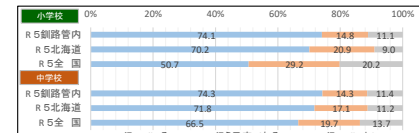
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



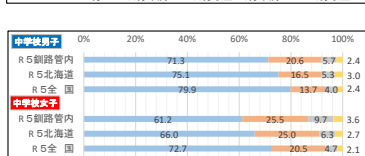
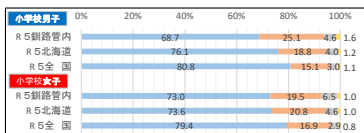
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



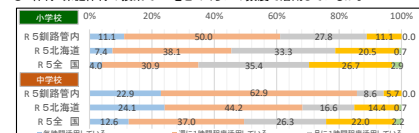
○ 運動・スポーツが楽しいな傾向がある児童生徒向けの取組、または能力開発に応じた取組を行っているか。



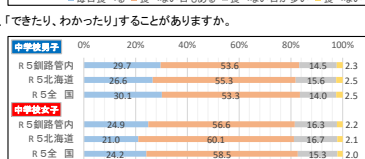
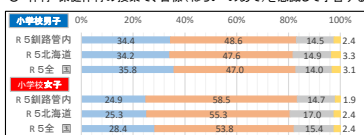
○ 朝食は毎日食べますか。



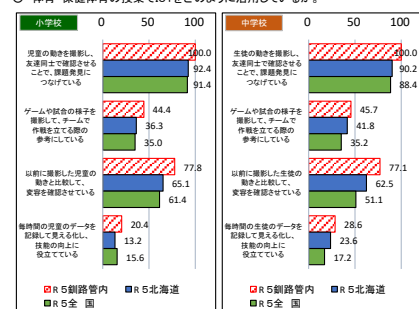
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



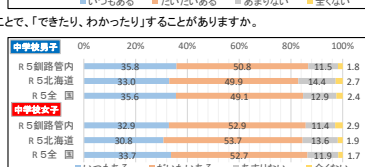
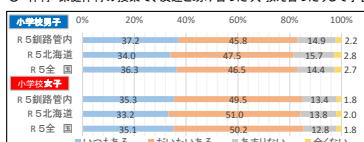
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜小学校＞		＜中学校＞	
実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が0.51ポイント高く、女子が0.85ポイント高い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子、女子ともに7種目である。 ○ 体力合計点は、今年度男子が全国を上回り、女子は継続して全国を上回っている。 	実技調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力合計点は、全国と比較して、男子が3.08ポイント、女子が3.45ポイント低い。 ○ 種目別で全国を上回ったのは、男子の1種目のみである。 ○ 体力合計点は、今年度男子が全国を上回り、男女ともに、差が拡大している。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「令和4年度の調査の結果を踏まえた取組をしている」と回答した学校の割合は、全国を上回っており、「体育の授業は楽しい」「体育の授業で進んで参加している」と回答した児童の割合は、男子で全国を上回っているが、女子で全国を下回っている。 ○ 体育授業において「目標を定めて活動」「振り返り活動」「児童同士が話し合う活動」をしていると回答した学校の割合は全国を上回っているが、「体育の授業で目標を定めて話し合う活動」をしていると回答した児童の割合は男女ともに全国を下回っている。 ○ 「体育授業以外で、全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」と回答した学校の割合は全国を上回っており、「卒業後も自主的に運動したい」と回答した児童の割合は、男子で全国を上回っているが、女子で全国を下回っている。また、「平日、学習以外で、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている時間が5時間以上」と回答した児童の割合は、男女ともに全国を上回っている。 	質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「令和4年度の調査の結果を踏まえた取組をしている」と回答した学校の割合は、全国を上回っており、「運動が好き」「運動は大切」と回答した児童の割合は、男子で全国を上回っているが、女子で全国を下回っている。 ○ 体育授業において「目標を定めて活動」「振り返り活動」「児童同士が話し合う活動」「役割を果たす活動」「振り返り活動」をしていると回答した学校の割合は全国を上回っているが、「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業で、進んで学習に参加している」と回答した児童の割合は男女ともに全国を下回っている。 ○ 「体育授業以外で、全ての児童の体力・運動能力の向上に係る取組を行った」と回答した学校の割合は全国を上回っているが、「卒業後も自主的に運動したい」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国を下回っている。また、「授業以外で運動やスポーツを合計で1週間1420分以上している」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国を下回っている。

釧路管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

- (1) **A 体力向上に係る検証サイクルの質的向上**
- 「調査結果を踏まえた年間指導計画の改善を行った」と回答した学校の割合は小・中ともに全国以上であるが、実技調査の経年変化では、校種や学校を問わず、多くの項目で全国平均を下回る状況が続いている。
 - 学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における義務教育指導監及び指導主事等の指導助言を通して、体力向上に向けた学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確にするとともに、取組の充実を図る。
- (2) **B 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**
- 「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った」と回答した学校の割合は、小・中ともに全国以上であるが、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した割合は、中学校男子以外は全国平均を下回っている。
 - 体育専科教員、体育エキスパート教員、推進教員（スペシャリスト）等を講師とした局独自研修会を実施し、児童生徒が運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」への共通理解を図る。
 - 学校教育指導訪問等を通して、ICT環境を適切に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善への共通理解を図る。
- (3) **C 学校、家庭、地域等が連携・協働した運動機会の提供等による運動習慣の定着**
- 「体育の授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組を全ての児童生徒に対して行った」と回答した学校の割合は全国以上であるが、「卒業後で授業以外でも自主的に運動したい」と回答した割合は、全国を下回っている。
 - たくさん元気アップチャレンジやリズム運動動画作成の推奨、道立ネイバル等と連携した地域の自然を生かした体験活動の推進を通して、好事例を支援課便り等で共有する。

2 具体的な取組

月	(1)A体力向上に係る検証サイクルの質的向上	(2)B主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	(3)C学校、家庭、地域等が連携・協働した運動機会の提供等による運動習慣の定着
4			
5	管内指導主事研修会（令和5年度における学校教育指導訪問に係る協議、管内指導主事）	学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における義務教育指導監及び指導主事等の指導助言	道立ネイバル等と連携した地域の自然を生かした体験活動の推進
6	学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における指導主事等の指導助言		
7	学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における指導主事等の指導助言		
8	学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における指導主事等の指導助言		
9	学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における指導主事等の指導助言		
10	中学校授業実践・改善セミナーの実施 小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導		たくさん元気アップチャレンジの実施
11	訪問指導等、研修会の計画策定に係る各推進教員と連携した指導主事等の指導助言 訪問指導等、研修会の計画策定に係る各推進教員と連携した指導主事等の指導助言	訪問指導等、研修会の計画策定に係る各推進教員と連携した指導主事等の指導助言	たくさん元気アップチャレンジやリズム運動動画作成の推奨
12	釧路管内体育授業改善研修会 ※エキスパート授業公開、専科/スペシャリスト実践発表	EBE研修会 ※エキスパート、専科/スペシャリスト実践発表	
1		ICT環境を適切に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善への共通理解（ICT研修会との連携）	
2	令和5年度体力向上等における成果と課題の共有（管内指導主事・各推進教員）		
3			

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)A体力向上に係る検証サイクルの質的向上	(2)B主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	(3)C学校、家庭、地域等が連携・協働した運動機会の提供等による運動習慣の定着
<p>推進マップに基づく自己評価※各項目4点満点</p> <p>① 体力向上に向けた検証改善サイクルの継続的な推進 (小学校4.00、中学校4.00)</p> <p>■小学校3.67、中学校3.69</p> <p>② 体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組における検証改善サイクルの充実 (小学校4.00、中学校4.00)</p> <p>■小学校3.57、中学校3.44</p>	<p>改善</p> <p>推進マップに基づく自己評価※各項目4点満点</p> <p>① 運動等が好きな子どもの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実 (小学校4.00、中学校4.00)</p> <p>■小学校3.39、中学校3.53</p> <p>② ICT環境を適切に活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実 (小学校4.00、中学校4.00)</p> <p>■小学校3.56、中学校3.53</p>	<p>推進マップに基づく自己評価※各項目4点満点</p> <p>① 体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実（運動習慣） (小学校4.00、中学校4.00)</p> <p>■小学校3.39、中学校3.53</p>

4 改善に向けた今後の方向性

<p>(1) 体力向上に係る検証改善サイクルの質的向上</p> <p>□ 「体力向上に向けた検証改善サイクルの継続的な推進」については、中学校は昨年度より改善しているが、小学校は昨年度より低下している。</p> <p>一学校経営指導訪問・学校教育指導訪問等における義務教育指導監及び指導主事等の指導助言を通して、体力向上に向けた学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確にするとともに、取組の充実を図る。</p> <p>□ 「体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組における検証改善サイクルの充実」については、目標値との差が大きい。</p> <p>一体育エキスパート教員、体育専科教員及び中学校体育授業改善推進事業との連携のもと、局独自の研修会や小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導を実施し、児童生徒の体力や運動習慣等に関わる現状把握や分析方法、評価時期や評価方法、年度途中の取組改善の在り方などについて、普及啓発を図る。</p>	<p>(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>□ 「運動等が好きな子ども」の育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実については、目標値との差が大きい。</p> <p>一体育エキスパート教員、体育専科教員及び中学校体育授業改善推進事業との連携のもと、局独自の研修会や小学校体力向上等推進事業に係る訪問指導を実施し、児童生徒が運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」への共通理解を図る。</p> <p>□ 「ICT環境を適切に活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実」については、小学校は昨年度より改善しているが、中学校は昨年度より低下している。</p> <p>一学校教育指導訪問等を通して、児童が自己の課題に応じて主体的に取り組んだり、友達と関わりながら課題を解決したりする機会を意図的に位置付けるための、ICT環境を適切に活用した授業改善への共通理解を図る。</p>	<p>(3) 学校、家庭、地域等が連携・協働した運動機会の提供等による運動習慣の定着</p> <p>□ 「体力・運動能力の課題や子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実」については、目標値との差が大きい。</p> <p>一たくさん元気アップチャレンジやリズム運動動画作成の推奨、道立ネイバル等と連携した地域の自然を生かした体験活動の推進を通して、好事例を支援課便り等で共有する。</p>
---	---	--

根室管内の状況

1市4町

小・中学校

(小学校数:24校 児童数:558人、中学校数:20校 生徒数:539人)

実技に関する調査

【体力合計点】

○ 小学校

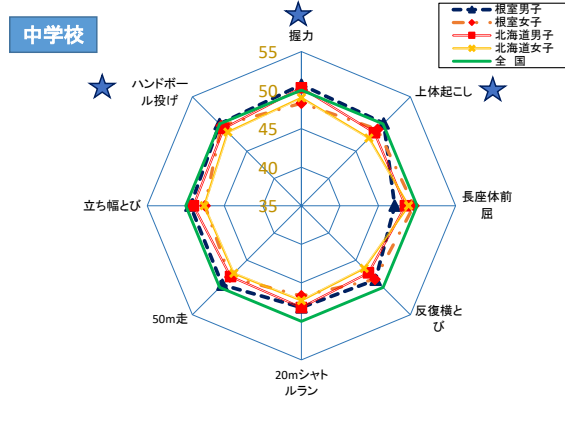
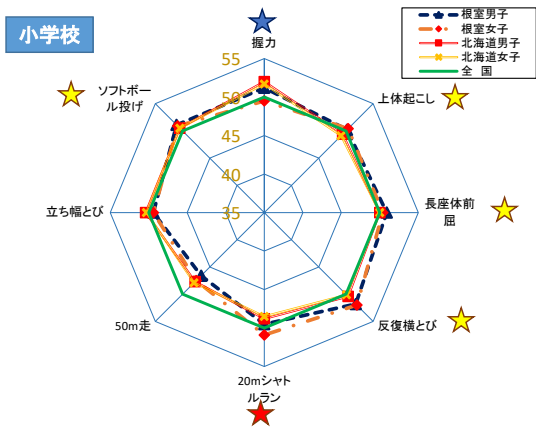
	男子	女子
根室	52.57	54.14
北海道	52.23	53.77
全国	52.59	54.28

○ 中学校

	男子	女子
根室	40.19	44.99
北海道	39.36	43.73
全国	41.32	47.22

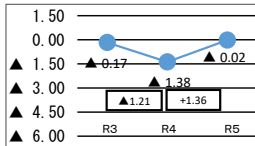
【各種目の状況】

全国を50とした時の数値(T得点)をレーダーチャートで表示 ☆ は男女ともに全国平均以上の種目 ★ は男子のみ全国平均以上の種目 ★ は女子のみ全国平均以上の種目

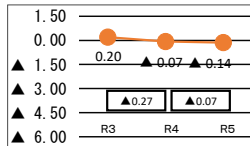


【体力合計点の全国との差とその推移】

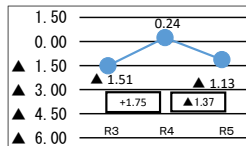
小学校男子



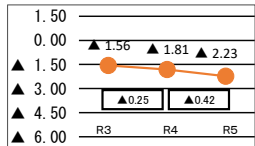
小学校女子



中学校男子



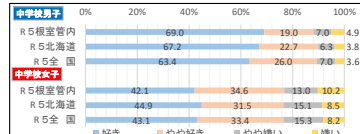
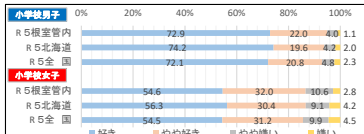
中学校女子



【質問紙調査の状況】

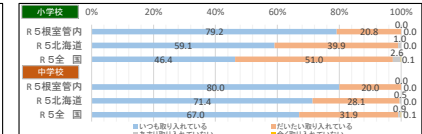
<児童生徒質問紙>

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

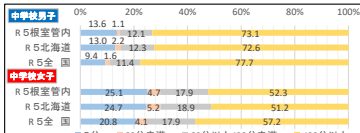
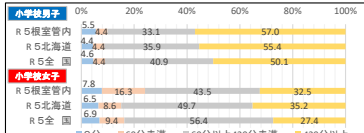


<学校質問紙>

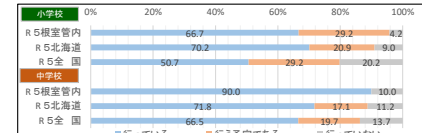
○ 体育・保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童生徒に示す活動を取り入れていますか。



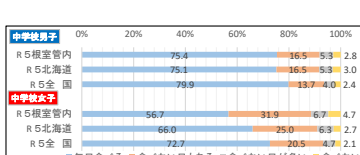
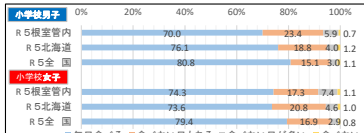
○ 授業以外で、運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを合計で1週間およそのくらの時間していますか。



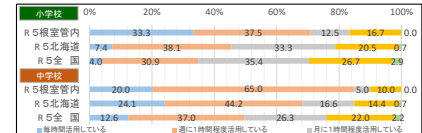
○ 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童生徒向けの取組、または能力差に応じた取組を行っているか。



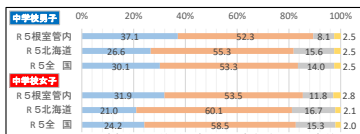
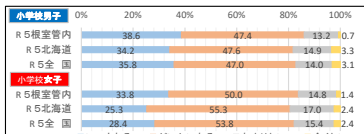
○ 朝食は毎日食べますか。



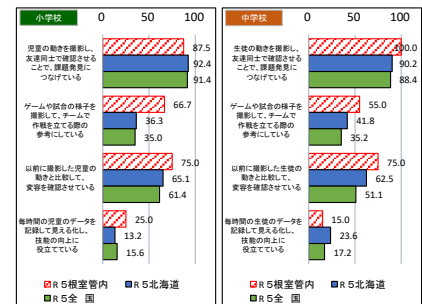
○ 体育・保健体育の授業でICTをどのくらいの頻度で活用しているか。



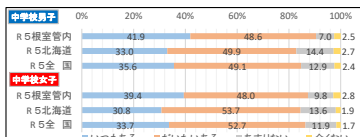
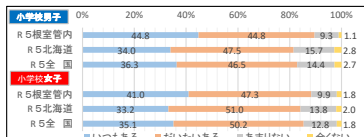
○ 体育・保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



○ 体育・保健体育の授業でICTをどのように活用しているか。



○ 体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



実技調査及び質問紙調査の分析

＜ 小 学 校 ＞		＜ 中 学 校 ＞	
実技調査	・体力合計点は、全国と比較して、小学校男子が0.02ポイント、女子が0.14ポイント低く、課題である。 ・種目別に全国を上回ったのは、男子、女子ともに5種目である。	実技調査	・体力合計点は、全国と比較して、中学校男子が1.13ポイント、女子が2.23ポイント低く、課題である。 ・種目別に全国を上回ったのは、男子のみ3種目である。
質問紙調査	・「体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがある」と回答した児童の割合は、男子が38.6%であり、全国と比べて2.8ポイント高い。女子が33.8%であり、全国と比べて、5.4ポイント高い。 ・「体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動を取り入れている」と回答した学校の割合は、79.2%であり、全国と比べて32.8ポイント高い。	質問紙調査	・「保健体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがある」と回答した生徒の割合は、男子が37.1%であり、全国と比べて7.0ポイント高い。女子が31.9%であり、全国と比べて、7.7ポイント高い。 ・「保健体育の授業の冒頭で、その授業の目標を児童に示す活動を取り入れている」と回答した学校の割合は、80.0%であり、全国と比べて27.0ポイント高い。

根室管内における体力向上の取組

1 管内課題と重点的な改善策

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> □ 新体力テスト分析ツールを効果的に活用し、自校の実態に応じた体力向上プランを作成するなどしながら、自校の教育目標や各種調査結果を踏まえた学校全体で継続的な取組を推進するよう指導助言する。 □ 運動が苦手な児童生徒への対応等、課題解決に向けた組織的・継続的な取組を学校全体で徹底し、教員間での共通理解や取組状況の振り返りを日常的に継続するよう指導助言する。
(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校教育指導訪問等において、児童生徒が学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう指導助言する。 □ 「体育専科教員活用事業」で、体力向上等推進重点校に指導助言や支援を行い、体育の授業改善や体力向上に関する各種取組の充実・強化を図る。 □ 「中学校体力向上推進事業」で、保健体育科の教員を対象とした授業実践・改善セミナーを実施し教員の指導力向上を図る。 □ 「ミドルリーダーによる教員への支援」を活用した校内研修及び日常の授業改善につながる校内研修を充実するよう指導助言する。
(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備	<ul style="list-style-type: none"> □ 教育資源を活用し、生活習慣・学習習慣の確立を図った好事例を普及し、自校の課題解決につなげるよう指導助言する。 □ 「どさん子元気アップチャレンジ」における各種団体等と連携した体力向上を取組の推進するよう指導助言する。

2 具体的な取組

月	(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立	(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備
4			
5	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（～7月）		
6	学校教育指導訪問（計画・要請・リモート訪問）	学校教育指導訪問（計画・要請・リモート訪問）、ミドルリーダーによる授業への支援「授業づくりの基本セミナー」「授業づくりの充実研修」（学習評価、課題とまとめ、授業改善等）	学校教育指導訪問（計画・要請・リモート訪問）、「根室教育局『視学』UP！プロジェクト」市町独自事業への支援
7	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた体力向上に向けた取組の把握		「どさん子元気アップチャレンジ」の実施
8		「ちょこっとオンライン研修」（体育が苦手な児童生徒のための授業づくり）	
9	管内教育推進の重点に係る評価① 管内教育推進の重点に係る好事例の普及		
10	小学校体力向上等推進重点校の訪問指導		
11		「中学校授業実践・改善セミナー」公開授業・講義・ワークショップ及び演習	
12	小学校体力向上等推進重点校の訪問指導		
1	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果に基づく分析及び改善方針に係る資料作成及び普及		
2	管内教育推進の重点に係る評価② 管内教育推進の重点に係る好事例の普及		
3	管内教育推進の重点評価シートによる取組状況の把握及び評価結果を踏まえた改善方針の策定		

3 取組の評価 ※（ ）は目標値

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立 ① 根室管内教育推進の評価「子どもの変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.48（4点中）中：3.18（4点中） ② 根室管内「『授業改善（改革）・人材育成・学校マネジメント』の一体的な充実事業」における取組事項「教師間での共通理解や取組状況の振り返りを日常的に継続」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.57（4点中）中：3.35（4点中）	(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ① 根室管内教育推進の評価「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（改革）」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.48（4点中）中：3.00（4点中） ② 根室管内「『授業改善（改革）・人材育成・学校マネジメント』の一体的な充実事業」における取組事項（育成する資質・能力を明確にした単元の指導計画の作成、思考の流れを明らかにした学習活動の位置付け）（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.52（4点中）中：3.12（4点中）	(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備 ① 根室管内教育推進の評価「地域の教育資源を活用した教育活動の整備」（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.62（4点中）中：3.41（4点中） ② 根室管内「『授業改善（改革）・人材育成・学校マネジメント』の一体的な充実事業」における取組事項（家庭や地域の人の協力を得ながら、授業以外の場で児童生徒自身が学習の進め方を考えるための支援の工夫）（全小・中学校3.2点以上） ■小：3.38（4点中）中：3.00（4点中）
---	---	--

4 改善に向けた今後の方向性

(1)組織的・継続的な検証改善サイクルの確立 ○ 児童生徒の変容を即時的に評価する継続的な検証改善サイクルの確立 ○ 目指す子ども像を共有した異校種間の連携及び一貫教育の推進	(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ○ 実践的指導力や専門性の向上を図り、主体的に学び続ける教員の育成 ○ 児童生徒一人一人の個性や多様性を認め合う支持的な風土で学びが展開される環境の整備	(3)地域の教育資源を活用した教育活動の整備 ○ 家庭や地域と連携した児童生徒の生活習慣学習習慣の確立に向けた取組の推進 ○ 「どさん子元気アップチャレンジ」の活用を含む体力向上に向けた1校1実践の取組の推進
--	---	---

どさん子元気アップチャレンジ「ダブルダッチ全道大会」

「一人でトライ」

- 実施方法
 - ・ロープを回す人は児童生徒のほか、教員も可とする。
 - ・「はじめ」の合図で跳び始め、**60 秒間**経過した時点で「終わり」の合図をする。
※ロープに入るまでの時間を含めて計測する。
 - ・「終わり」の合図をした時点までの、跳躍に成功した回数の合計を記録する。
※失敗しても時間内は続けて行うことができ、失敗以降の回数も加算してカウントする。
- 記録
跳んだ回数の合計を記録とする。

<「一人でトライ」説明動画>

<https://youtu.be/dnc.jjRZfUqY>



「みんなでトライ」

- 実施方法
 - ・同学年または異学年3人以上（跳ぶ人）でチームをつくる。なお、ロープを回す人はチーム以外の児童生徒のほか、教員も可とする。
 - ・ロープの外で待機し、「はじめ」の合図で1人ずつにロープに入り跳び始める。
※ロープに入るまでの時間を含めて計測する。
 - ・3回以上跳躍したらロープから抜け、次の人がロープに入る。
 - ・**60 秒間**経過した時点で「終わり」の合図をする。
 - ・「終わり」の合図をした時点までに、3回以上跳躍をしてから抜けた人数の合計を記録する。
※失敗しても時間内は続けて行うことができ、失敗以降の人数も加算してカウントする。
- 記録
3回以上跳躍をしてから抜けた人数の合計を記録とする。

<「みんなでトライ」説明動画>

https://youtu.be/QvDWgkyly_0

